

# 炉辺談話総集編

No. 8

2009～2010 年

## もくじ

四大奉仕に基づく諸活動に関するロータリーの方針	2
歴代RI会長のプロフィール	7
新資本主義とロータリー	16
フリーメイソンとロータリー	20
ロータリーの奉仕理念	22
1906年制定シカゴ・クラブ定款の解説	25
1906年制定シカゴ・クラブ細則の解説	29
ロータリーの原点を探る	32
職業奉仕とは何ですか？	47
なぜロータリーに入会するのか？	49
女性会員入会の歴史	50
戦後のRI復帰	53
職業奉仕採点表	57
米山奨学生の日記	58
ロータリーの曙 日本編	59
自炊のすすめ	71
近況報告	73
He Profits Most Who Serves Best	75

## 四大奉仕に基づく諸活動に関するロータリーの方針

決議23-34が存亡の危機にあります。

しかし、この決議を改正または廃止しようという動きは昨今起こったものではなく、1984年に一旦手続要覧から抹消されたものの日本からの働きかけによって復活したという経緯があります。

なぜこの決議を廃止したいのかという幾つかの理由が考えられます。

まず考えられるのは、第1条に「この哲学は奉仕—Service above self—の哲学であり、He profits most who serves best という実践倫理の原理に基づくものである」と定めていることです。RIを始め欧米系ロータリアンの思考の中にはロータリー運動の中核は職業奉仕であるという考えはなく、NPO乃至はボランティア組織であると認識している人が大部分を占めています。従ってモットーはService above self だけで十分でありHe profits most who serves best は不必要な存在です。

さらにHe profits most who serves best に関しては、アメリカの一部のリベラリストからHe が性限定用語であるという理由で削除しようという動きがでています。そこで極論として、これらのモットーを定義している唯一のドキュメントが決議23-34であることから、いっそのことこの決議全体を廃止しようという流れが強まっているということです。

RIにはノーベル平和賞を受賞しようという大きな夢があります。どうやらロータリー財団創立100周年の2017年を目指しているらしいと穿った見方をする人もいます。そのためには、現在やっているようなクラブや地区レベルの小さなプロジェクトでは目立たないので、RI主導型の大型プロジェクトを手がける必要があります。その際最も大きなネックになるのが決議23-34の第5条クラブ自治権に関する条文です。

クラブは奉仕活動を自由に選ぶ権利があり、RIは特定の奉仕活動を命令したり禁止することはできません。従ってポリオ・プラスにせよ、RI会長のテーマにせよ、RI会長賞にせよ、単なる推奨であってクラブがこれを拒否することは自由なのです。RIの命令一下、一大プロジェクトを実践するためには決議23-34は大きな障害になるのです。

決議23-34がどのような背景の下で生まれたのかを思い起こす必要があります。RIは1923年の国際大会に「決議23-8障害児並びにその救助活動に従事する国際的組織を支援する件」という決議案を提案することを決めました。これは積極的に身体障害児対策を推奨するために、ロータリーが国際身体障害児協会の活動を代行し、その費用として、RIが年間1ドルの特別人頭分担金を徴収することを定める内容であり、もしも、これが採択されれば、奉仕活動実践に関するクラブ自治権の侵害という問題で、收拾がつかない状態になることは必至でした。これに反対したシカゴ・クラブは、RIが奉仕活動の実践をクラブに指示することを禁止する決議23-29を提案するという反対活動を展開しました。

その混乱を避けるために、決議23-8と決議23-29の双方を撤回する代わりに決議23-34を提案すること

によって、この論争に終止符が打たれることになったのです。ロータリーは上意下達の団体であってはなりません。クラブの自治権はどんなことがあっても堅持しなければなりません。決議23-34の最初のタイトルは「綱領に基づく諸活動に対するロータリーの方針を再確認し、国際ロータリーとロータリークラブにおける今後の手引きとなる原則を定める件」でした。このタイトルからも、この決議23-34はロータリーにおける綱領に基づくすべての活動、すなわち四大奉仕すべてを規制するドキュメントであることが判ります。

現在の手続要覧では、決議23-34が社会奉仕の項目に入っており、その表題も「社会奉仕に関する1923年の声明」となっているため、社会奉仕の指針であると間違えて解釈している人が多いのですが、ロータリーにおいて四大奉仕の考え方が導入されたのは1927年からであり、その際に文中で使われているCommunityという言葉が、Community Service 社会奉仕という言葉と関連付けられて、現在付けられているタイトル「社会奉仕に関するロータリーの方針」と変更されに過ぎません。本来は、社会奉仕のみではなく、全ての奉仕活動の指針であることを忘れてはなりません。

ただし現在のロータリーの綱領は必ずしも四大奉仕に対応したものではなく、新しく定款上で四大奉仕が定義されたことを勘案すれば、その表題を「四大奉仕に基づく諸活動に関するロータリーの方針」とした方が全てのロータリアンに理解されやすいと思います。

決議23-34をどんなことがあっても消し去ってはならないという熱い思いはよく判ります。しかし日本を中心とする極く僅かなロータリアンしかその存在を認識していないことも現実です。その流れの中で廃止または無視されるのならば、決議23-34の精神を生かしながら、世界のロータリアンから快く受け入れられるような新しいドキュメントを日本から発信することも一考に価すると思います。新しいドキュメントを作るに当たって次の点に留意しました。

タイトル・単なる社会奉仕に留まらず、ロータリーの活動の哲学のおよび実際的な規準として新しく定款に採択された四大奉仕に基づくすべての活動を包含する方針とする。

第1条 ロータリーの奉仕哲学の定義・職業奉仕理念と人道的奉仕理念の具体的な定義

第2条 ロータリークラブの定義・現行と変わらず

第3条 国際ロータリーの定義・国際ロータリー定款に合致するように一部変更

第4条 実践哲学の定義・前文は現行と変わらず。後半のロータリークラブの団体的奉仕活動の具体的な条件は現状にそぐわない点が多いため削除

第5条 クラブ自治権の定義・ほぼ現行と変わらず

第6条 人道的奉仕活動の条件・現状にそぐわない点が多いため、全面的に改定

以上の点を勘案して、決議23-34の基本精神を生かしつつ、奉仕活動の実践に関する新しいドキュメントを作ってみましたので、皆様方のご批判を仰ぎたいと思います。

---

## 四大奉仕に基づく諸活動に関するロータリーの方針

以下に掲げる諸原則は、ロータリークラブ及びロータリアンの指針として、また、ロータリークラブの活動の哲学的および実的な規準である四大奉仕に基づく諸活動に関するロータリーの方針を明確に表わすものとして、これを採用するものである。

1 ロータリーの奉仕理念は人生哲学であり、利己的な欲求と利他の心との間に存在する矛盾を和らげようとするものである。ロータリーには二つの奉仕理念があり、その一つは「超我の奉仕」という人道的奉仕活動の理念であり、もう一つは「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という職業奉仕の理念である。

2 本来ロータリークラブは、事業および専門職務に携わる人の代表として、ロータリーの奉仕の哲学を受入れ、次のことを実行することを目指している人々の集りである。

- (1) ロータリーの奉仕理念が職業および人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体で学ぶこと。
- (2) 自分たちのあいだにおいても、また地域社会に対しても、その実際例を団体で示すこと。
- (3) 各人が個人としてこの理念をそれぞれの職業および日常生活において実践に移すこと。
- (4) 個人として、また団体としても大いにこの理念を説き、その実例を示すことによって、ロータリアンだけでなく、ロータリアン以外の人々すべてが、理論的にも実践的にも、これを受入れるように励ますこと。

3 国際ロータリーは次の目的のために存在する団体である。

- (1) ロータリーの目的を推進するようなプログラムや活動を追求しているRI加盟クラブやRI地区を支援すること。
- (2) 全世界にわたって、ロータリーを奨励し、助長し、拡大し、管理すること。
- (3) RIの活動を調整し、全般的にこれを指導すること。

4 奉仕するものは行動しなければならない。従って、ロータリーとは単なる心構えのことを言うのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に表さなければならない。そして、ロータリアン個人もロータリークラブも、奉仕理念を実践に移さなければならない。

5 各ロータリークラブはクラブとして関心があり、またその地域社会の要請に従った人道的奉仕活動を自主的に選ぶ権利を持っている。しかし、いかなるクラブも、ロータリーの目的を無視するような人道的奉仕活動を行ってはならない。そして国際ロータリーは、一般的な奉仕活動を研究し、標準化し推

進し、これに関する有益な示唆を与えることはできるが、いかなるクラブのいかなる奉仕活動についても、それを命じたり禁じたりすることはできない。

6 個々のロータリークラブが人道的奉仕活動を実践するに当たって、次の指針に従うことが推奨される。

(1) 地域社会の人々の要請に適った奉仕活動を選択しなければならない。

(2) 地域社会の人々の自助を支える事業を選択しなければならない。

(3) 地域社会の人々と一緒になって事業に関与しなければならない。

(4) ロータリークラブが立派に遂行した有益な事業については正しい広報が行われるべきである

(5) ロータリークラブの奉仕活動は、なるべく現存の機関に協力する形で行うことが望ましいが、現存機関の設備や能力が目的の遂行に不十分である場合には、必要に応じて新たに機関を設けることができる。

(6) ロータリークラブが事業を始めたり指導したりするに当たって、その事業に関心をもっていると考えられる他のすべての団体の協力を得るよう努力すべきである。

## 歴代RI会長のプロフィール

### 1910-12年ポール・パーシー・ハリス

オハイオ州シカゴ

ロータリーの創設者ポール・ハリスは、1868年4月19日にアメリカ合衆国ウィスコンシン州ラシーヌに生まれました。彼の両親は、ジョージ・ハリスとコルネリア・ブライアン・ハリスでした。商売人であったジョージはバーモント州ウォリングフォードのハワード・ハリスの息子であり、コルネリアはラシーヌの2代目市長ヘンリー・ブライアンの娘でした。ハリス夫妻は彼らの最初の息子をセシル、2番目の息子をポール・パーシーと命名しました。

ジョージとコルネリアは金銭感覚に乏しく、事あるごとに祖父のジョージに資金援助を求めましたが、結局、浪費癖のために破産し、ジョージは、バーモントの祖父の下に預けられ、コルネリアは末の娘と共にラシーヌに残ってピアノ教師で生計を立てる道を選びました。

5歳半のセシルと3歳のポールは、バーモントのグリーン・マウンテンの谷間という新しい環境の下で育ちました。彼らは厳しいけれど優しい祖父母の下で、山道を走り回ったり、家畜の世話をしながら、祖母の手作りの料理を味わいました。セシルはまもなくその後3人の兄弟が増えていた両親の下に帰りましたが、ポールはそのままそこに残りました。

祖父ハワードは、かつて弁護士になることを夢見ていましたが、その夢をポールに託しました。後日彼が書いているように、彼の本性である目的意識や清廉潔白さや誠実さは、いずれも彼の祖父から引き継がれたものです。さらに人類愛、特に子供に対する愛情は祖母パミラからもたらされたものです。ポールは野性味あふれる子供でした。散歩やハイキングやスケートやマス釣りや、急な山腹でスキーをするのが好きでした。彼はいたずら好きで、深夜に寝室の窓から抜け出して、いたずら仲間に加わっていました。

高校卒業後に、ラドローにあるブラックリバー・アカデミーに入学しましたが、いたずらが原因で退学処分となりました。その後、士官学校であるバーモント・アカデミーに入学し、1885年にバーリントンにあるバーモント大学に入りますが、再度素行不良のため退学処分になりました。後日、大学側はポールと3人の仲間に対する措置が誤りであったことを認めて謝罪し、卒業資格を与えました。

彼は家庭教師をつけてもらって勉学にいそしみ、プリンストン大学に入学しましたが、在学中に祖父が死んだので、プリンストン大学を辞めざるを得ませんでした。

その後ポールは、日給1ドルで、雑用係として大理石会社で真面目に働きながら、アイオワ州立大学に通い法律を学ぶことになりました。その途中、1週間ほどシカゴに立ち寄る機会がありました。喧騒に満ちたシカゴは彼の心を奪い、彼は将来この町に戻ってくると誓いました。学生生活を無難にこな

し、法律に関する素晴らしい知識と、読書に対する関心と、特に人間としての素晴らしい経歴をつけて、彼は1891年に卒業しました。彼の卒業直後、祖母が死にました。彼女が永遠の眠りに就いたとき、悲しみにくれたポールは、彼女が小さな谷間の村で78年間の人生を全うしたことを改めて思い起こしました。彼女はそのことに満足していましたが、ポールは、考えつくあらゆる角度とできるだけ多くの方向から人生を研究するために5年間を費やして世の中のことを経験した後に、シカゴに戻って弁護士になることを決意しました。

最初の目的地はカリフォルニアでしたが、途中、イエローストーン公園や北アイダホやその他の魅力的な場所を訪れて、1891年7月にサンフランシスコに到着したときには、彼のポケットは空になっていました。彼はクロニクル社で特派員の仕事を見つけて、仲間の特派員と共に大陸を横断することを決心しました。途中、カウボーイをしたり、山岳地帯やヨセミテ溪谷を300マイルも歩いたり、ブドウ摘みやビジネス学校の教師をしたり、証券会社で働いたりしながら旅を続けました。

仲間と別れたポールはフロリダを訪れ、ジャクソンビルのホテルで夜間事務員の仕事を見つけました。次に、大理石や花崗岩のディーラーであるジョージ・クラークの下で、外交販売員として働きました。クラークは約20年後にジャクソンビル・ロータリークラブのチャーター会長を務めました。

ポールはグローバー・クリーブランド大統領の就任式に出るためにワシントンに行き、その後、南部地域で大理石を販売しました。そこから、フィラデルフィアにでて、家畜運搬船に乗って厳しい14日間の船旅の末、リバプール着きましたが、その船はすぐ帰路に就いたため、ロンドンを訪れるという夢をかなえることはできませんでした。しかし、すぐに新しい機会が訪れて、素晴らしい船旅で直接ロンドンに行くことができました。

フィラデルフィアに戻った後、シカゴの世界博覧会を見に行き、そこからニューオリンズへ行って果物の摘み取りや、入り江でカキの収穫をしました。再びジャクソンビルのジョージ・クラークの大理石会社へもどり、1年間、南部各州やキューバやバハマを回りました。さらにジョージは、彼をイギリスやヨーロッパ大陸の花崗岩や大理石生産地に派遣しました。いたる所で、彼は友人を作りました。アメリカに戻ったポールは、シカゴにおける生活を計画しました。割り当てられた5年間の3分の2は終わりましたが、彼はお金が必要でした。再度ジョージ・クラークに頼んで、ニューヨーク事務所に務めました。

1896年2月27日、5年間のタイムリミットを迎える4か月前に、ポールはシカゴに着きました。彼は事務所用の小さな部屋と備品を借りて、自身のスペースを確保しました。世紀の変わり目のシカゴは混乱の街であり、社会的、経済的な不安定さは弁護士にとって絶好の機会でした。ポールの好意的な性格は、社会のあらゆる階層の人たちの信頼を得ました。しかし、この田舎育ちの少年は、日曜日や休日には喧騒に満ちた街から抜け出して、郊外を探索しながら、故郷の友人のことに思いをはせました。

1900年のある夏の夜、彼はロジャース公園の近くに住んでいる友人の弁護士と一緒に食事をしまし



た。食事の後、近所をぶらつきながら友人の顧客の事業所を訪ねました。その都度、その友人は事業主を紹介してくれました。ポールは、そのような社会的に繋がりのある実業家の友人のグループを作ることが名案であると思いつきました。それぞれが異なった事業や職業を代表していれば、特別な利点があるに違いありません。彼は石炭商シルベスター・シール、鉱山技師ガスターバス・ロア、印刷屋ハリ―・ラグルズと、彼自身の顧客のことを思い浮かべました。

1905年2月23日の夜、ポールとシルヴェスターとガスは、仕立て屋のハイラム・ショーリーと共に、ユニティ・ビルのガスの事務所で最初の会合を開きました。その会合は、他の知人を誘い入れて、定期的に開かれました。ポールは、いくつかの名前を提案しましたが、彼らはロータリーという名前を選びました。事業の成功を夢見ながら、農村や小さな村からでてきた人たちの関心を集めて、会員数は急速に増えました。

ロータリーの発展は無計画であり、偶然でさえあったと一般的に思われてきましたが、ポール・ハリスは、彼の著作の中で、それを真っ向から否定しています。彼はザ・ロータリアンの中に、「その計画は、苦労の上解決して、本気になって実行した。」と書いています。

国際化という概念すら、当初からの考え方でした。ポールは、まもなく、様々な会員が友情という共通の絆を共有しながらクラブが成長する原動力は、宗教や政治を超越して、奉仕を奨励する豊かな土壌にあることを悟りました。彼は友情こそが、好意と善行につながると確信していたのです。

ポール・ハリスはロータリーのために、すべてのエネルギーを費やしていたわけではありません。彼は活動的な弁護士であると共にシカゴ商工会議所、シカゴ市民クラブ、シカゴ弁護士会、ヒンズデール・ゴルフクラブの会員でした。そして、ハイキング・グループのプレーリー・クラブの創立会員でもありました。ここで、彼は3年前にスコットランドから来たばかりのジーン・トムソンという若い女性に巡り合いました。それから3カ月後に、彼女はポールの花嫁になり、彼らが会った丘の頂上に家を買いました。ジーンはスコットランドの彼女の家の通りにちなんで、そこをカムリーバンクと名づけました。

ポールは1907年に、アルバート・ホワイトの後任として、シカゴ・ロータリークラブの会長となり、引き続き、2期目の一部を勤めました。1910年に、14のロータリークラブの代表者は、チェスレー・ペリーの要請を受けて、シカゴの国際大会に出席しました。全米ロータリークラブ連合会は慎重に検討された定款と細則を採択し、ポール・ハリスを会長に、チェス・ペリーを幹事に選びました。

チェスが、すべてのロータリークラブと当時の1,800名になっていた会員に送るメッセージを求めたところ、ポールは、チェスがタイプで打てないくらいの長い随筆をしたためて、それに応じました。その成果は1911年1月に発行された、ナショナル・ロータリアン第1巻第1号に掲載されています。

チェス・ペリーは、新しい連合会の組織と管理に専念し、ポールは主に広報の分野で活躍しました。彼と9人シカゴ・クラブの仲間たちは、ミネアポリスに50人の会員のクラブを設立しました。彼はシ

ンシナティ、クリーブランド、デトロイト、ピッツバーグ、インディアナポリスや、ロータリーが拡大された外国の新しいクラブを訪れました。ロータリーの創設者および名誉会長として、拡大と影響を与えるために旅行したあらゆる場所で、力強い刺激を与えました。ポールとジーンはカムリーバンクで多くのロータリアンを楽しませました。ここを訪れた客の名誉を讃えて庭には樹が植えられました。ポールは彼の友人のリストの中にはすべての国の人たちを含ませたいと述べています。「友情あふれる快適さの交換」。彼は理解と好意を促進するための最高のものを考えていたのです。

ポール・ハリスは1947年1月27日に逝去しました。ロータリーは今日、約2万8000のクラブ、120万の会員が結束して、彼の記念碑と彼の遺産を引き継いでいます。

---

## 1912-13年 グレンC. ミード

ペンシルバニア州フィラデルフィア

ロータリーの事務総長チェスリー・ペリーは「グレンはポール・ハリスの後任として最適な人物であり、その時々にはふさわしいニーズに適った現実的な考え方を組織に導入しました。」と語っています。

グレンC. ミードは全米ロータリークラブ連合会の2代目の会長として、早くから囑望されていました。

彼は両親が荒野から切り開いたペンシルバニア州エリー郡の田舎の農場で生まれ、農村の生活にお決まりの厳しさに鍛えながら成長しました。南北戦争による負傷が原因となって父を失い、家族の貧困にもかかわらず、グレンは17歳でニューハンプシャー州のフィリップス・エクセター・アカデミーを経て、4年後にはハーバード大学を優秀な成績で卒業しました。彼はフィラデルフィア州のエピスコパル・アカデミーで古典を教えながら法律を勉強し、最終的に1900年に、フィラデルフィアの弁護士資格を取りました。

若くして政治的手腕を発揮して、都市の道路や住宅を整備して、商業の中心地や鉄道網を開発し、有名な鉄道出版社の顧問弁護士として高い評価を受けました。グレン・ミードはすべてのことを完全にやり遂げる人でした。

1910年に、フィラデルフィア・ロータリークラブの創立に際して、初代会長を務め、1911年のポートランド国際大会で、全米ロータリークラブ連合会の理事に選ばれ、1年後には新しく名前を変えた国際ロータリークラブ連合会の会長に選ばれました。

グレンは連合会とロータリアン誌の財務に関して、チェス・ペリーと緊密に連絡をとりながら働きました。また、竜巻と洪水がアメリカ中西部を襲ったとき、災害救助を求める最初のロータリー募金運動を組織化しました。しかし、彼が成し遂げた最も素晴らしい業績は、1915-16年に会長になったアレン

D. アルバートが述べたように「点在しているクラブを友情によってまとめ上げた」ことです。グレン・ミードは1954年5月24日に逝去しました。

---

## 1913-14年ラッセルE. グレーナー

ミズーリ州カンザスシティ

ロータリーの3代目の会長ラッセル・グレーナーは南北戦争終戦直後にオハイオ州キセニアで生まれました。彼はキセニア小学校を卒業後、キセニア大学に通い、青年時代はキセニア・ガゼットの特派員を務めました。

1889年に、アメリカン紙の編集者ホラティウス・グリーリーの意見に従って、アルフレッド・ユーンウェルという名前の友人と共に、カンザスシティの西を旅行しました。「フレッド」と「ラス」の名前は、彼らの生涯を通じた友人としてまたビジネス・パートナーとして、その町に残っています。

カンザスシティタイムズの編集部、靴の会社のセールスマンを務めた後、ラッセルはユニオン・バンクノート社の営業部に入りました。数年後に、彼は副会長になって、高品質なリトグラフに対する国際的名声を達成するために、彼の生涯を会社に捧げました。

ラッセル・グレーナーは、社会的にも市民としてもリーダーであり、1910年にカンザスシティ・ロータリークラブを設立するために尽力し、その翌年にはクラブ会長を務めました。1911年に国際ロータリークラブ連合会の副会長に選出され、1913年には会長に就任しました。

彼は会長の期間中、現存するほとんどすべてのロータリークラブを訪問するために各地を旅しました。自らの義務を果たすように、クラブや役員を奨励して、精力的に意思疎通を図りました。ラッセルはシカゴにおけるロータリー本部の再構築を図り、公式雑誌を発展させるために尽力しました。

国際ロータリーの会長を務めることが、「自らの人生における最も素晴らしい出来事」であったにもかかわらず、彼は後継者が1914年にテキサス州ヒューストンで開催された国際大会で直ちに引き継ぐことができるように、在職期限を2ヶ月早めて辞任しました。ラッセル・グレーナーは在籍中、40回に近いほとんどすべての国際大会に出席し、1961年6月4日、93歳で逝去しました。

---

## 1914-15年フランクL. マルホランド

オハイオ州トレド

ロータリーの4代目会長、フランク・マルホランドは1875年に、人口800人のミシガン州ディスコで生まれました。父親はメソジスト派の牧師であり、牧師の任期は3年間と定められていたので、フランクは少年時代をいろいろな小さな町で過ごしました。

この流転の生活は彼に冒険心を植え付けました。19歳のときに、家畜運搬船に乗って大西洋横断の冒険旅行に出発し、道中いろいろな仕事に就いて生活費を稼ぎながら、自転車に乗ってヨーロッパ中を旅行しました。ギリシア文明にすっかり魅了された彼は、学生や一般の人たちの興味をひこうと、途中何回も帰国しながらギリシア芸術に関する講演のプレゼンテーションを準備するために、長期間アテネに滞在しました。

フランクは、帰国してから弁護士になろうと決心し、学費を捻出するために日中はクリーニング屋で働きながら、デトロイトの夜学に通い、最終的にミシガン大学の法学部を卒業しました。

卒業後、彼はトレドに法律事務所を開いて、市民の生活のために積極的に取り組み、商工会議所の会頭を務めたり、トレドにできた新しいロータリークラブの熱心な会員として奉仕しました。1926年と1934年にアメリカ鉄道労働者条例の制定に関わり、第一次世界大戦中はアメリカ赤十字の団長を勤めました。赤十字に勤務中は、赤十字が積極的に戦争に取り組むように強く働きかけました。アメリカに帰国後、戦争の悲劇を強く訴え、ロータリアンや他の善意の人たちが国際理解と平和の達成に向かって活動する必要性を説きました。

1949年6月7日、常に朗らかで快活だった第4代会長は、ニューヨーク州レークプラシットのロータリー国際協議会の席上で急逝し、全世界のロータリアンと役員はショックと悲しみに包まれました。

---

## 1915-16年アレン・アルバート

ミネソタ州ミネアポリス

科学や歴史や文学に精通したジャーナリスト、特派員、従軍記者、編集者、出版者であるアレン・デイル・アルバートは、1874年10月3日にペンシルバニア州ウィリアムSPORTで生まれました。

校長であった彼の父親は、言葉遣いに関して厳格でした。アレンは駆出しの記者を経て、特派員として幾つかのワシントンの新聞社で働きながら、ワシントンDCのコロンビア大学、現在のジョージ・ワシントン大学の法学部を卒業しました。その後、ワシントン・タイムズの編集者、オハイオのコロンブス・ニュースの編集者兼出版者になって、1911年にミネアポリス・トリビューンの編集者になり、その年にミネアポリス・ロータリークラブに入会しました。アレンは地域社会すなわち、州の芸術や科学や市民活動に貢献し、ミネソタ司教区の高い地位に就きました。彼は、ミネソタ大学の公開講座の講師、経済学に関する多くの随筆の作者であり、アマチュアスポーツにも貢献しました。彼は社会学の名誉博士号とクリスチャン指導者としての銀十字賞を持っていました。

国際ロータリークラブ連合会の会長としての彼の最高の栄誉は、有名な従軍記者J.A.マクガハンの記念碑に対して祝辞を捧げることでした。1898年に起こったキューバにおける米西紛争の最前線にはアレン自身があり、幾つかの主要新聞の特派員の代表として活躍しました。

アレンは、世界中のクラブの広報組織を標準化して、1945年のサンフランシスコの国連の国際会議においてロータリー派遣団のリーダーを務めました。

彼は、後のRI会長ウォルター・ヘッドによって、「創立者のポール」、「組織作りのチェスリー」と並んで「インスピレーションのアレン」としてロータリーの歴史に名を残しましたが、1964年7月1日に逝去しました。

---

## 1916-17年アーチ・クランプ

オハイオ州クリーブランド

ペンシルバニア州コネチカットで1869年6月6日に生まれたアーチ・クランプは、オハイオ州クリーブランドで、彼の人生の大部分を過ごしました。彼の母親は有名なアメリカの小説家ジェームズ・クーパーの子孫で、父親の先祖は、1771年にニューヨークに定住しました。

アーチは12歳のときに一家の暮らしを助けるために学校を退学したので、ほとんどが独学でした。彼はクリーブランド設けられた夜学に通うことによって、学力の不足を補いました。

18歳でクリーブランドのキューヤホガ製材所の雑用係の職につきましたが、すぐに昇進して、最終的には会社の会長、総支配人そして経営者になりました。また、彼は製箱会社や銀行の社長や、不動産業と汽船会社の副会長を務めました。彼はクリーブランドに留まらずオハイオ州における実業界と地域社会双方の組織でも活動し、法的な件に関する建設業者のスポークスマンの役割を果たしました。

彼の芸術的センスは素晴らしく、優れたフルート奏者として、クリーブランド・シンホニー・オーケストラで14年間も演奏する傍ら、マネージャとして活躍しました。また、彼はスポーツでも活動的でした。

ロータリーにおいては、偉大なロータリー財団になる基礎を作ったアーチ・クランプとして、最も大きな貢献をしました。1917年に、カンザスシティ・ロータリークラブからの26ドル50セントの寄付金から始めた財団基金は、今日何億ドルもの基金に成長して、外国に行って自らが選択した学問を追求する機会を全世界の学生に提供しています。また、アーチは地区組織を構成する基礎となる、標準ロータリークラブ定款と細則の制定に関わりました。1914年、クリーブランド・ロータリークラブに入会して3年後に、アーチ・クランプは国際ロータリークラブ連合会の理事になり、1916年には会長に選出されました。1951年6月3日に逝去しました。

---

## 1917-18年レスリー・ピジョン

カナダ・マニトバ州ウィニペグ

レスリー・ピジョン博士はアメリカ人以外の最初の国際ロータリー会長であり、会長になった最初の聖職者でした。そして、教会を訪れる信者と同様に、日々の生活や活動に対して深い宗教的な配慮を払って職務に当たりました。彼はまたロータリーの名前の下に集まった個々の国の同じ人間として、ロータリーの本質的な活動や人間性に、強い国際的な感覚を与えました。

レスリー・ピジョンは1873年にケベックの農場で生まれました。彼はモンリオールのクイーンズ大学と長老派の大学の双方を卒業生し、最初の任地はオンタリオ州マーカムでした。次の任地はブリティッシュ・コロンビアのバンクーバーであり、彼はそこでロータリークラブに入会して、1915年のサンフランシスコのロータリー国際大会に代表議員として参加しました。

一貫性をもった敬虔な信者として、レスリーはアメリカの統一教会を代表して、カナダのすべてのプロテスタントの宗派を統合しました。教会を統一したいという願いを適えたことで、ローマンカトリック教会の牧師ジョン・ハンドレー神父によって、ロータリーの会長に指名されました。

雄弁家であり立派な教育家でもあったレスリーは、財政に関しても類まれな才能を持っており、ロータリーの長期財政計画に腕を振るいました。彼は、また、奉仕活動の分野を広げて、美術の活動を通じてラテンアメリカの発展に寄与しました。専門分野でも同様に熱心で、50,000カナダ・ドル以上も調達して、カナダの公教育の研究に備えました。

会長の前任者アレン・アルバートは、「彼は大胆な船頭、奨学金に詳しい中年の牧師、初期の教会の神父のような善意と優しさを持っていました。彼はロータリーの松明を運んでいるのです。」と述べています。レスリー・ピジョンは1946年2月1日に逝去しました

---

## 1918-19年ジョン・プール

ワシントンDC、アメリカ

ロータリーの8代目会長ジョン・プールは、ウェスト・ヴァージニア州パーカーズバーグで生まれましたが、生後4カ月でワシントンに移り住んだ生粋のアメリカの首都育ちです。

彼はワシントンの公立学校に通いましたが、15若い歳のときにアメリカ・エクスプレス社の事務員として最初の仕事に就きました。10年間エクスプレス社に在籍後、生涯を銀行員としての道を歩むために、ワシントン融資信託会社に移りました。銀行員としての彼の出世は目覚ましく、1913年には、新しい銀行を国内に設立し、1933年まで会長として勤めていましたが、その後投資事業会社アメリカン社を設立しました。

彼は、アメリカの銀行協会の初代会長を経て、コロンビア特別区の銀行協会会長を務めました。また、アメリカ赤十字社やYMCAなどの多くの団体や公職の役員を務めると共に、コロンビア聾啞協会の熱心な後援者でもありました。地区防衛委員会の会計や、ワシントン広告クラブの会長や、5つの特別

融資キャンペーンのワシントン委員長や、ワシントンのアメリカン大学の管財人受託者も務めました。

ジョンは、1912年に設立されたワシントン・ロータリークラブの創立会員であり、初代会長を務めました。国際ロータリー会長を終えた後に、再びクラブの入会委員会の委員長や理事を務めました。ジョン・プールは1940年8月17日に逝去しました。

## 新資本主義とロータリー

他の国際的な組織と同様にロータリーもアメリカン・スタンダードがまかり通っているようです。グローバル・スタンダードと言いながら、通用する言葉も発信される情報もほとんど英語です。世界中のロータリアンの浄財であるロータリー財団も、全世界のロータリアンによるグローバル・スタンダードによって運営されるのではなく、イリノイ州法に基づくローカル・アメリカン・スタンダードでその使い道が決定されているのが実情です。財団基金はロータリアンからの預かり金として堅実に運用すべきであるのに、アメリカン・スタンダードに基づいてハイリスク・ハイリターンへのヘッジ・ファンドにその運用を任せただけで、今回の経済不況によって200億円(財団寄付額の2年分)という大きな損害を蒙りました。

政治禁といいながらアメリカの歴代共和党の大統領はロータリアンであり、レーガンも親子二代にわたるブッシュもその例外ではありませんでした。

1933年4月に行われたシカゴクラブ会員440名のアンケート調査では、共和党支持者72.59%に対して民主党支持者は8.64%であり、その傾向は現在にも引き続かれているものと思われます。

ごく最近になって民主党のオバマ大統領が就任するまでは、RIやアメリカのロータリークラブの中にはネオ・コンサーバティブスや新資本主義の考え方が深く染み込んでいたことは間違いのない事実です。自分の儲けのためだけにM&Aやデリバティブやレバレッジとあらゆる手段を使って錬金術に狂奔することを当然のこととし、共和党の資金源となったエンロンを始め、石油や穀物や貴金属や不動産を買い漁った投資ファンドを生み出した揚句、サブプライム・ローン問題に端を発した世界経済恐慌という負の遺産をもたらした新資本主義とはいったい何でしょうか。

資本主義とは産業革命後の社会における資本家と労働者による経済体制のことで、資本家対労働者の対立の構図だと考えられてきました。

しかし、20世紀の後半すなわち第二次世界大戦後になると、資本家対労働者という対立の構図の中に、第三の存在とも言える経営者が入ってきます。資本主義の初期には、資本家が経営者を兼ねていましたが、だんだん企業が大きくなって、組織も複雑化していく過程で、組織を管理する、言い換えれば企業を経営することを専門とする経営者が出現したわけです。資本家ではなくて、資本家に雇用されている経営者のことを、サラリーマン社長と表現することもあります。すなわち資本家、経営者、労働者の対立の構図に変化します。

さらに、グローバル時代に突入して企業が国際化すると、資本家対経営者対労働者という、三者対立の中に、第四の存在ともいえるべき、投資ファンドに代表される疑似資本家が出てきて、資本家、経営者、疑似経営者、労働者の四極対立の構図になるわけです。この四極対立の構図のことを新資本主義と表現しています。



この疑似資本家は自分たちは資本家ではありませんが、お金を持っている人たちから資金をかき集めて、金を儲けるためだけの手段としてM&Aをかけて会社を乗っ取ったり、強引に経営に参加するもので、巷ではハゲタカと称されている存在です。この疑似資本家たちは、同時に、疑似経営者として乗っ取った企業に、企業価値を上げよとか、生産効率を上げよとか、ビジネスモデルを変えよと口を出して、経営に直接介入していきます。投資ファンドは金を儲けることを唯一の目的にしていますから、その資金をレバレッジなどの技法を使って何十倍いや何百倍にも増幅させて、オイル、穀物、不動産などあらゆる分野に投資して、人為的なバブル景気を作りました。ガソリン、穀物価格、貴金属の高等やドバイにおける異常とも言える不動産景気などは、すべて投資ファンドによって引き起こされたものです。さらに問題を大きくしたのは投資ファンドにつぎ込まれた資金が、個人資産やオイル・マネーのみならず、大きな利回りを期待した世界中の銀行や年金がこれに飛びついたことです。日本の企業年金も例外ではありません。

アメリカではエンロンがその引き金を引き、スチール・パートナーズなどの数多くの投資ファンドが生まれ、その後ほとんどの投資銀行や証券会社がこれに加わりました。日本ではホリエモンや村上ファンドがこれを真似し、メガ・バンクがこれに続きます。

テキサス州ヒューストンに本拠を置く総合エネルギー企業エンロンは、不正なガスと電力取引によって巨大な利益をあげました。しかし不正な株価操作と粉飾決算が内部告発によって表面化して結果的に倒産しました。

ライブドアは世間の誰もがやらないような方法で法律の抜け道を潜って、会社の実態の伴わない株式分割をしたり、時間外取引や投資事業組合やペーパー・カンパニーを使って、株の買占めや粉飾決算をしました。

これらの二つの会社の共通点は、株価至上主義に走ったあまり、本来は会社の業績を示す指標であるはずの株価を、利益のかさ上げや、損失のとばし、デリバティブによって人為的に上げようとしたことにあります。

物言う株主として脚光を浴びた村上ファンドはニッポン放送株のインサイダー取引によって実刑判決を受けました。堀江氏や村上氏のやり方に対して、ファンドだから「安ければ買い、高ければ売る」のは当然だという擁護論もありますが、社会に対する奉仕を第一義に考えず、自分の利益を優先させたことは、ロータリーの職業奉仕理念とは程遠いことは明らかです。

敵対的買収で有名なスチール・パートナーズについても同様なことがいえます。東京高裁の下した判断が世界の経済界の常識に反するという批判もありますが、金を儲けることだけを目的としたブルドッグソースや明星食品に対するするTOBは果たして社会に対する奉仕なのでしょうか。M&Aと書くと格好よく聞こえますが、会社や従業員や消費者の利益のためのM&Aでなければ、これは「会社乗取屋」に過ぎません。「会社乗取屋」を含めた世間の人達が疑義を抱くような方法で巨万の富を築くような事

業は、ロータリーが定義する世に有用な職業ではなく、虚業に過ぎないのです。ロータリーは、こういった事業をまともな職業だと判断して入会を許した経済団体の轍を踏むようなことがあってはならないのです。

こういった新資本主義を許したのがアメリカのロータリアンを基盤にした共和党政権であり、日本の経済界もこれに追従していたわけです。

アメリカの共和党政権の外圧によって、日本においてこの考え方を積極的に導入したのが、小泉・竹中ラインです。ホリエモンを時代の寵児として誉めたたえ、「わが弟」と壇上で共に手を高く掲げた当時の自民党幹事長の姿が目につかびます。この頃から、資本家対労働者という基本的な対立の構図の中に、労働者対労働者という新たな対立の構図が現れます。それは正規雇用者対非正規雇用者の対立です。すなわちニートとかフリーターとか言われる非正規雇用者と、従来からの終身雇用制の中にいる正規雇用者です。これは企業がグローバル競争に勝つために、有能な人たちはしっかり確保する代わりに、単なる労働力として使う人たちを雇用調整の道具として低賃金で雇うというものです。

さらにもっと大きな変化が起ころうとしています。それは非正規雇用者よりももっと低賃金で雇用することができる移民労働者の存在です。アメリカやヨーロッパではさして珍しいことではありませんが、日本でも、日系ブラジル人労働者やインドネシアやフィリピンからの看護師など今後避けることができない問題となることでしょう。

かつて私たちは、陰日なたなく額に汗しながら、もくもくと働く姿を尊いものだと教えられてきました。企業は永年雇用、年功序列を原則とし、労働者は企業に忠誠を誓うことを当然だと考えてきました。しかし新資本主義が闊歩しだした昨今ではその考え方が大きく変化してきました。労使の目的意識が変化し、雇用体系も変化してきました。労働者側も効率よく働くことが美德とされ、生活費を稼ぐのに必要な時間だけ働いて、余暇を楽しむという風潮さえ生まれました。職業に関する目的も大きく変化し、企業は利益の追求を第一義に考えて会社を運営し、労働者は高い収入を得ることを第一義に考えて働くようになってしまいました。

何れの生きざまが正しいのかは、私には判断し兼ねます。ただ、企業経営に関しては、すべての規制を外して市場の原理に任せ、さらに倫理感による規制を排除すれば、究極の拝金思想に走った何でもありの弱肉強食のハゲタカの社会、すなわち新資本主義に陥ることが実証されました。しかしその虚構の社会も巨額の年金基金や現実の通貨の何百倍もの借金を残して世界的な不況をもたらして崩壊することも同時に学んだのです。

ロータリーの職業奉仕の理念は、アーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した企業経営の理念を踏襲したものであり、自分の利益を優先するのではなく、自らの職業を通じて社会に奉仕することによって、その見返りとして適正で継続的な利益が得られることを説いているものです。当然のことながら、ロータリーの職業分類の中には自らの利益のために他人の資本を活用する投資ファンドのような疑

似資本家は含まれておりません。

サブプライム・ローン問題に端を発した世界経済恐慌という大きな代償を払って、やっと全世界の職業人が新資本主義に疑義を感じ始めた今こそ、ロータリアンは経営者の立場から、株主や従業員はもちろん同業者や顧客も満足するような職業奉仕理念を根底にした、正常な企業経営ができるように、リーダーシップを発揮すべきではないでしょうか。

**He profits most who serves best.**

## フリーメイソンとロータリー

私が書いている「炉辺談話」の「歴代RI会長のプロフィール」に関して、或るパストガバナーから、1922-23年度RI会長レイモンド・ヘイバンズがフリーメイソンだという記述を読んだが、それは本当かどうかと言う質問をいただきました。

実はこの「歴代RI会長のプロフィール」はRIが1997年に発行した「Paul Harris and his successors ポール・ハリスとその後継者たち」を翻訳したものであるため、RI自身が今までタブーとされてきたフリーメイソンとの関係に触れて、レイモンド・ヘイバンズ元RI会長がフリーメイソンであったことを公表したわけです。

この文中には「Ray was past commander of the Scottish Rite Bodies of Kansas City, a thirty-third-degree Mason, and Past Potentate of the local Masonic temple.レイは、カンザスシティのスコットティッシュ・ライトの元指導者であり、フリーメイソンの33階級であり、地元のフリーメイソン教会の元実力者でした。」記載されています。

スコットティッシュ・ライトはフリーメイソンの上位階級を意味し、33階級とはフリーメイソンの最高位の最高大総監であったことを表します。

なお「Paul Harris and his successors」にはヘイバンズ元会長以外にも、1918-19年度RI会長ジョン・プール、1941-42年度RI会長トム・デービスはフリーメイソンであり、1955-56年度RI会長A.Z.ペーカーはフリーメイソンの33階級であったことが紹介されています。

東ヶ崎潔元RI会長もフリーメイソンであるという文献もありますが、ロータリーの公文書にはそのことに関する記載はありませんから真偽のほどは定かではありません。

インターネット上の百科事典「ウィキペディア」には、「ロータリークラブの創始者であるポール・ハリスはフリーメイソンであったが、社会奉仕と慈善活動に専念する公開結社として、ロータリークラブを設立したといわれている。ただし、ロータリークラブ側は、組織としてのフリーメイソンとのつながりは否定している。」と記載されていますが、ロータリーの公文書にはポール・ハリスがフリーメイソンであったという記述は見当たりません。

フリーメイソンと言うと何やら得体の知れない秘密結社というイメージが強いようです。中世騎士団の末裔とか、ユダヤ人の秘密結社とか、世界制覇を狙った地下組織といった見方をする人もいますが、それはどうやら、「ダビンチ・コード」や「悪魔と天使」などの小説や映画の世界の影響を受けた話のようで、本当はイギリスで生まれた石工を中心とした専門職種集団が、その後友愛団体に発展したというのが通説のようで、その目的は友愛fraternityと一つの世界one worldだと言われています。入会条件として「無神論者」「女性」「身体障害者」を排除しているところが特異的です。

ロータリーで説く親睦fellowshipや世界社会奉仕world community serviceの考え方とよく似ていると

ころが、世間の人がロータリーと混同する原因かも知れません。

ロータリアンの中にフリーメイソンが沢山いることは間違いのない事実であり、自分がフリーメイソンであることを誇らしげに語った上、もしも私が希望するならばいつでも日本のグランド・ロッジに紹介するとアメリカ人のパストガバナーに誘われたこともあります。

どうやら外国では胡散臭い秘密結社ではなく、誇りを持ったエリート集団だと考えている模様です。フリーメイソンの上部組織といわれるイルミナティの文献の中には、ロータリーやライオンズはイルミナティの下部組織の一つであると書かれていますが、ロータリーの文献のどこを探しても、イルミナティやフリーメイソンとの関係を窺わせる記述はありません。

元首相、鳩山一郎はフリーメイソンであり、彼が設立した「友愛同志会」はフリーメイソンの精神を基礎にしたものだと著書の中で述べています。鳩山一郎の薫陶を受けた鳩山由紀夫、鳩山邦夫兄弟が最近盛んに「友愛fraternity」という言葉を強調していますが、これがフリーメイソンの考え方を基本にして日本の政治の舵を取ることを意味するのならば、何か不気味で危険な感じがします。

## ロータリーの奉仕理念

ロータリーではThe ideal of service 奉仕理念という言葉がよく使われます。米山梅吉はポール・ハリスのThe first Rotarian およびThis Rotarian age の翻訳に当たって、これを奉仕の理想と訳していますが、この表現は現代の言葉として馴染みにくい感じがしますので、奉仕理念という言葉を使いたいと思います。

ロータリーの奉仕理念とは何でしょうか。理念を哲学に置き換えて奉仕哲学と読み替えれば、決議23-34に「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—Service above self—の哲学であり、He profits most who service best という実践理論の原理に基づくものである。」と定義されています。すなわちロータリーにはHe profits most who service bestとService above selfという二つの奉仕理念があることになります。

He profits most who serves best は、アーサー・フレデリック・シェルドンがミシガン大学経営学部のマスター・コースで専攻した販売学を基本として、1902年に自らが設立したシェルドン・ビジネス・スクールで、20世紀の経営学の基本理念として教えていた考え方を、そのままロータリーが受け入れて、ロータリーの奉仕理念として採択したものであり、自分の儲けを優先するのではなく自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を持って事業を営めば、結果として継続的な事業の発展が得られるという独自の思考です。ロータリーが他の奉仕団体と大きく異なる点は職業奉仕であり、職業奉仕を完全に理解するためには、その根底にあるシェルドンの思考を理解しなければなりません。

この原型となった文章は、アーサー・フレデリック・シェルドンが1910年に開催された第一回全米ロータリークラブ連合会で語ったHe profits most who service his fellows best というフレーズであり、この言葉は1911年のポートランド大会でHe profits most who service best というフレーズに変更されてロータリー宣言の結語として採択されました。

人道的奉仕活動の理念となったもう一つの言葉の原型は、フランク・コリンズが1911年のポートランド大会で語ったService not self であり、この言葉はその後Service above self に変化し、これらの二つの言葉は1950年にロータリー・モットーとして正式に採択されました。残念なことには、このService above selfは誰がいつどのような意図で提唱した言葉なのかは詳らかではありません。

私の調査によりますと、The ideal of service という言葉を最初に使ったのはグレンC. ミードだと思われる、1915年に開催されたサンフランシスコ大会のスピーチの中で「私たちは事業や経済活動の中で同僚に対して高いideal of serviceを与えることができないだろうか」と述べています。事業や経済活動の中という但し書きが付いていますので、奉仕理念の最初の発想は職業奉仕理念であったことが容易に推察できます。

1918年のカンザスシティ大会で「すべての尊敬すべき事業の基礎としてのideal of service」という文章が連合会の綱領として採択されましたが、これも尊敬すべき事業の基礎という文章から、職業奉仕理念のことを表しているものと思われます。

ポール・ハリスは1921年のエジンバラ大会で「ideal of serviceの表明を通じて、文明水準を高揚し商工業を成功に導く原動力にしよう」というスピーチを行っています。これも対象を商工業にしていることから職業奉仕理念のことだと考えられます。

1922年にロータリーの綱領が改正されて、「ロータリーのideal of serviceに結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって、理解、親善と国際間の平和を増進すること」という文章が発表されましたが、文中の奉仕の理想という言葉は「実業人と専門職業人」という単語に掛っているのでやはり職業奉仕を意味するものだと考えられます。

1934年にポール・ハリスはデトロイト大会において「たとえ自動車の車輪が円形でなくなったとしてもロータリーの奉仕理念は永久に変わることはない」というスピーチをしており、その後も数多くの著作やスピーチの中でThe ideal of serviceという言葉を使っていますが、この奉仕理念についての内容は具体的に述べられていません。

何れにせよこの年代においては、ロータリーの奉仕理念とは職業奉仕の理念すなわちHe profits most who serves best を指していたものと思われますが、その後奉仕の対象が人道的奉仕活動にシフトされるに従って、奉仕理念の意味も変化してきます。1937年ニース国際大会においてRI会長ウイル・メーニアJrは「誰かが奉仕理念とは、他人のことを思い遣り他人のために尽くすことだと定義しました。他人のことを思い遣り他人のために尽くすことを通じて、ロータリアンは自らの職業の規範を高めながら、国際理解と親善と平和を推進するために自らの地域社会に役立つように努力しています」と述べています。誰が最初に「他人のことを思い遣り他人のために尽くす」という表現をしたのかは不明ですが、この説明は明らかに人道的奉仕活動を指すものと考えられます。

チェスレー・ペリーは1954年3月にタルサ・クラブで講演して「多くのロータリークラブが夫々の地域社会で行なっている社会奉仕活動の素晴らしい業績に加えて、ロータリー運動は全体として、ロータリーの会員になる人だけではなく、人類全体にわたって、他人のことを思い遣り他人のために尽くすというideal of serviceが受け入れられ、実行されて行くものと信じています。」と述べています。

また、1955年11月にコネチカットで行われたインターシティ・ミーティングで、チェスレー・ペリーは、「ロータリアンは人類すべてが他人のことを思い遣り他人のために尽くすようになるまで、超私の奉仕の活動に参加するように説得すべきです。」と述べています。

これらのスピーチからはロータリーのideal of serviceは他人のことを思い遣り他人のために尽くすことすなわちService above self を指していることがうかがえます。現在は公式名簿(Official Directory)の最終ページの記載されているbrief history of RotaryにThe ideal of serviceとは、他人のことを思い遣

り、他人のために尽くすこと which is thoughtfulness of and helpfulness to others という解釈がつけられています。

ロータリー運動から職業奉仕の理念が徐々に希薄になり、人道的奉仕活動一辺倒になるに従って、ロータリーの奉仕理念の意味するところも変化するようです。



# 1906年制定シカゴ・クラブ定款の解説

このたび、歴史的文献を収録している英文のアーカイブス・サイトから1906年1月に制定されたシカゴ・ロータリークラブの定款・細則を発見しました。この資料は国際ロータリーの資料室にも存在しませんので、多分、世界で初公開となる重要文献ではないかと思われます。

原文は不鮮明な印刷をそのままpdf化したものなので、全文を手打ちでテキスト化し、それを翻訳しました。翻訳はなるべく現在の定款・細則の訳文に準拠しましたが、現在とは異なった内容が大部分なので、間違った解釈があるかも知れません。英文の原文と邦訳の全文を「アーカイブス」に収録していますので、もしも誤訳があればご指摘をいただければ幸いです。

## 第1条名称

本会の名称をシカゴ・ロータリークラブとする。

## 第2条目的

目的は以下の通りとする。

1. 会員の事業上の利益の促進
2. 通常、社交クラブに付随する良き親睦とその他の特に必要と思われる事項の推進

シカゴ・クラブの最初の定款として従来から紹介されていた条文です。「僅か2行からなる短い定款であった。」と紹介されていましたが、これは大きな間違いであり、7条の定款と12条の細則からなる本格的な規約です。当初のシカゴ・クラブには奉仕の概念はなく、事業の繁栄と親睦を目的にしてロータリーが創立されたことが分かります。

## 第3条会員資格

第1節 次の各項の何れかに属する者を本クラブの会員とする

第1項シカゴ市において合法的な事業に従事している経営者、共同経営者、または会社役員

第2項生命保険会社の代表者、代理店および販売店の資格を持つ者

第3項運送業者の代表者、総代理店および総販売店の資格を持つ者

本会の会員がすでに代表者を務めている、前述の経営者、共同経営者、会社役員、代理店または販売店に属する職業に従事する、第1項および第2項に該当する者は会員になることはできない。

本会の会員がすでに代表者を務めている、ライバルまたは競争会社を代表する、第3項に該当する者は会員になることはできない。

候補者の事業が瑕疵なき会員の事業と競合ないしは侵害する疑いのある場合は、当該会員がそれに賛同しない限り、その候補者を会員として選出しないものとする。

会員資格は一般の業種については、経営者、共同経営者、または会社役員と限定されていますが、生命保険会社と運送業者の場合には、経営者や共同経営者や役員が入会していない場合には代理店または販売店の代表も入会が認められています。ライバルまたは競争会社の代表の入会を認めないという表現

で、一人一業種制度が定められていますが、競合ないしは侵害する疑いのある業種の場合には、すでにその業種の代表として入会している会員の賛同が条件となっています。

#### 名誉会員

第2節 名誉会員は定足数を満たした任意の例会における、出席会員の全会一致の投票によって選ばれる。名誉会員の資格は1年を超えることはできない。シカゴ市の非居住者と退職した実業家が会員として適切である。そのような名誉会員の事業上の利益を促進するように、正会員が配慮することを除外して、正会員が享受すると同様な権利と特権を持つものとする。名誉会員は、欠席によって罰金を科されることを除外して正会員と同様の義務を持つものとする。

名誉会員は事業上の利益を促進、すなわち他の会員から物質的相互扶助を受けることはできません。なお欠席の際、罰金を払う必要もありません。

#### 会員身分の継続

第3節 会員身分は1年間継続するものとする。しかし如何なる会員も、少なくとも10日前に予告文書を当該会員に通知した上で、定足数を満たした任意の例会において、2/3の投票によって、除名することができる。そのような文書は幹事が手渡すか、書留便で送るものとする。

#### 会員選挙

第4節 新入会員は定足数を満たした任意の例会において、出席会員の全会一致の投票によって選ばれる。なお、推薦する候補者の指名は、前回の例会で発表されるものとする。元会員は定足数を満たした任意の例会において、出席会員の3/4の投票によって選ばれる。

#### 退会

第5節 本会からの退会しようとする者は、クラブに対するすべてり負債を完済ののち、すみやかに会長または幹事に連絡しなければならない。

#### 会員身分の終結

第6節 4回連続して例会を欠席し、次の例会に提出する満足すべき始末書を会長または幹事に送ることを怠ったり、その例会に出席した会員の大部分がその説明に満足しない限り、すべての会員は、そのような怠慢が本会の更なる活動を阻害する理由を以って、会員身分を終結されるものとする。

会員身分が1年限りであること、入会は全会一致の賛成が必要なことが特徴的です。4回連続して欠席した場合には自動的に退会になるのではなく、始末書を提出して例会で弁明する機会が与えられています。

#### 第4条役員

本会の役員は会長、副会長、幹事、会計、記録係、統計係およびSAAとし、会員から選出され2名の会

員を加えて理事会を構成するものとする。

## 第5条 役員の仕事

### 会長

1. すべての会合の議長を務め、その他通常その職に付随する仕事を行うことをもって会長の仕事とする。

### 副会長

2. 会長不在の場合は、すべての会合の議長を務め、その他通常その職に付随する仕事を行うことをもって副会長の仕事とする。

### 幹事

3. 商取引の記録を保存し、諸会合の通知を発送し、その他通常その職に付随する仕事を行うことをもって幹事の仕事とする。

### 会計

4. すべての資金を管理保管し、会員の要求あるごとにその説明を行い、その他通常その職に付随する仕事を行うことをもって会計の仕事とする。その職を去るに当たって、会員として選出された任期の終了、辞職の理由如何を問わず、その保管するすべての資金をその後任者または会長に引き継がなければならない。

### 記録係

5. 会員の記録と出席記録を保管し、会員各自の身分終結に先立つ例会において、本会の会員身分終結が接近していることを発表し、身分終結が接近している通知や身分終結に関して会員に伝え、身分終結の日の少なくとも10日前できれば30日前に当該会員に連絡することを以って記録係の仕事とする。例会開始後ただちに出席をとるのは記録係の仕事とする。

### 統計係

6. 本会の会員による商取引の結果を例会において報告し、その報告を保管することを以って統計係の仕事とする。

### 7. SAA

例会の秩序を守り、その他通常その職に付随する仕事を行うことをもってSAAの仕事とする。

## 理事会

8. 理事会は、本クラブの会務および役員に対して総括的支配力を持つものとする。

会長、副会長、幹事、会計、SAAの仕事に関しては現在の規約とほぼ同様ですが、記録係、統計係の存在が特徴的です。

記録係は当時の会員身分が1年間に限定されていたため、会員身分の終結を知らせるために設けられた役職と思われます。

統計係は会員同士の物質的相互扶助の結果を例会で報告し、その記録を保管する役職と思われます。

## 第6条 役員選挙

役員選挙は毎年1月の第4木曜日に開催される例会で行われ、すべての役員は次年度もしくは任期満了の

何れかの場合に選出されるものとする。選出されたすべての役員の就任は本クラブの次の例会にて行われるものとする。現職の役員が任期満了となって空席が生じた場合、当該役員の後継者が選挙によって選ばれて、直ちにその職に就くものとする。役員任期は後継者が選出されるまでは継続されるものとする。

#### 第7条

本定款は定足数の出席する任意の例会において、出席会員の2/3の賛成投票によって改正することができる。但し、かかる改正案の予告は、会長が3回前の例会で発表するか、当該例会の少なくとも10日前に各会員に郵送されていなければならない。

シカゴ・クラブが2月に創立されたことから、当時のロータリー年度は2月から翌年の1月まででした。従って役員選挙も年度末の1月に行われました。

# 1906年制定シカゴ・クラブ細則の解説

## 1906年1月採択 細則

### 第1条例会

例会を休会する7月、8月を除いて、半月ごとに例会を開催する。

例会は毎週開催するものと考えている人も多いと思いますが、1922年に国際的に統一された標準ロータリークラブ定款が定められて、毎週1回の例会開催が義務づけられるまでは、半月ごとに例会を開催するクラブが多かった模様です。なお7月、8月は暑いので夏休みとして休会にしたようです。

### 第2条定足数

瑕疵なき会員の過半数を以って、会務処理に際する定足数とする。

### 第3条委任状

委任状は認めないものとする。

### 第4条会費

本会の会費は無料とする。但し、経費は細則第5条に基づいて課された罰金、全体の会員に課した賦課金もしくは任意の例会における出席者の3/4以上の投票によって決定する。

### 第5条罰金

クラブ例会に出席しなかった者は50セントの罰金を課し、その罰金は一般経費に充当されるものとする。会長の指示がある場合を除いて、いかなる理由があろうとも、その罰金を減額したり免除したりすることはできない。会費は無料でしたが、欠席者から1回50セントの罰金を取って、諸経費を賄いました。なお慈善事業などで費用を集める必要が生じた場合は、その都度、例会で動議を提案して、出席者の3/4以上の投票によって決定した模様です。なおニコニコ箱は日本独特の制度で、外国にはこれに類するものはありません。

### 第6条採決の方法

本会のすべての議事は、役員を投票によって選挙する場合を除いて、口頭による採決をもって処理されるものとする。

## 第7条 会員委員会

瑕疵なき3名の会員からなる会員常任委員会を設置するものとする。適切な候補者を選んでクラブに推薦書を提出することを以ってこの委員会の任務とする。

現在の会員増強委員会の役割です。

## 第8条 エンターテインメント委員会

会長は就任後直ちに、3名の会員からなるエンターテインメント委員会を設置するものとする。この委員会の委員は後継者が任命されまでの1年間務めるものとする。

現在の親睦活動委員会の役割です。初期のクラブ例会は親睦を深める行事が中心であったため、この委員会の存在は重要なものだったと思われます。

## 第9条

別に定めのない場合、すべての委員は会長によって任命されるものとする。

## 第10条 機密保持

会員の申し出があった場合を除いて、例会におけるすべての方針、規則、細則、および商取引は、厳密に機密を保持するものとする。要望を申し出る人がいるかも知れないが、相互扶助は非常に重要なことである。ただし例会開催時間中にその人にアドバイスを与えることを除く。クラブ創立の大きな目的が会員同士の物質的相互扶助であったため、会員各自の事業の内容が部外者に漏れないように、機密保持を徹底したものと考えられます。

## 第11条 議事の順序

- 1.開会宣言
- 2.点呼
- 3.前回の議事録発表
- 4.役員報告
- 5.常任委員会およびその他の委員会報告
- 6.審議未了議事
- 7.新規議事
- 8.閉会

## 第12条

本細則は定足数の出席する任意の例会において、出席会員の2/3の賛成投票によって改正することができる。但し、かかる改正案の予告は、当該例会の少なくとも1週間前に各会員に郵送されていなければならない。

**H.L.ラグルズ社出版モンロス街142**

この定款・細則がハリー・ラグルズの印刷会社で作成されたことが分かります。

## ロータリーの原点を探る

資本主義とは産業革命後の社会における資本家と労働者による経済体制のことで、資本家対労働者の対立の構図だと考えられています。19世紀から20世紀初頭は醜い資本家の欲望が労働者を搾取した時代でもありました。

資本家が原材料費から労働者に支払った賃金を差し引いたものを余剰価値生産(利潤)だと考えれば、いかに安い賃金で労働者を雇うかが利潤を増やして資本の自己増殖を図る鍵となり、そこに労働者の貧困、失業などの問題や、無秩序な自由競争による経済恐慌などの大きな社会矛盾を孕んでいました。

ロータリーが創立された当時は、いかにして利潤を独占しようかと、資本家が弱肉強食の競争に明け暮れていた時代であり、特に西部に進出するための交通の要衝として栄えたシカゴは、成功を夢見た人たちが集まった無法と腐敗の街であり、事業主は無秩序な自由競争に狂奔し、同業者はすべてライバルであり、法さえ犯さなければ金を儲けた者が成功者としてもはやされました。労働者を搾取したり顧客をごまかした取引で大金を得たことに対する後ろめたい気持ちも、僅かばかりのチャリティーをすることで周囲の人も納得しました。騙すよりも騙される方が悪いという風潮がまかり通っていました。

すさまじい自由競争の中で生きているビジネスマンにとっては、毎日過酷な日が続く、孤独感と疎外感に加えて、いつこの過酷な自由競争の敗者になるかもしれないという恐怖感が常に付きまとっていました。そんな街の中では親友ができる道理はありません。もしもこの街の中で心から何でも相談できる、また語り合える友人が居たらどんなにすばらしいことだろう。そういう発想からロータリーは生まれたわけです。

親睦を目的としてロータリーは出発しましたが、せっかく一人一業種でたくさんの仲間が集まったのだから、お互いの商売を利用して金儲けにそれを利用したらどうかという、さもしい発想が浮かんできました。すなわち物質的相互扶助という考え方が起こってきたのです。つい先日、歴史的文献を収録している英文のアーカイブス・サイトから1906年1月に制定された最初のシカゴ・ロータリークラブの定款・細則を発見しました。

定款第2条の目的には

1. 会員の事業上の利益の促進
2. 通常、社交クラブに付随する良き親睦とその他の特に必要と思われる事項の推進と明記されており、当初のシカゴ・クラブには奉仕の概念はなく、事業の繁栄と親睦を目的にして創立されたことが分かります。

会員同士の互惠取引が積極的に行われ、印刷業者のラグルスは、彼の保険を保険代理店のトユニソンと契約し、その代わりに、トユニソンはラグルスから文房具や用紙類を買います。二人はシールに石炭を注文し、彼は勿論保険と印刷を彼らに頼み、ハリスはいつもシールから石炭を買ったし、ごく当たり



前のこととして、三人全員からの法的な問題を喜んで引き受けました。四人とも汚れたシャツはアーサー・アーヴィンの洗濯屋に届け、アーヴィンは感謝しながら彼らと取引をしました。また、みんなは洋服屋のショーレーとも取引をし、その関係は果てしなく続いていきました。このようにして、彼らは堅固で自己中心的な相互扶助のグループを作っていました。自らが搔けない自分の背中を、お互いが車座になって搔き合おうというエゴイズムで、ロータリーは出発したのです。

この定款によれば、統計係という役職が設けられて、会員相互の商取引や斡旋の結果を郵送して例会で報告したという記録が残っています。

重要事項.....毎回の食事の数を確定し、会員相互で取引されたビジネスの量を確認する必要があるので、この郵便物を直ちに返送すること。あなたが取引したビジネスを立証する記録をつけて、その会員の名前をしめした記録を大切に保管しておくこと。

次回の例会に参加しますか (同伴者数)

(はい) (いいえ)

前回の例会以降、私は 人の会員から 件の取引を受け取った。

私は 人の会員について 件の取引に影響を与えた。

私は 人の会員に 件の取引を与えた。

日付 署名

ロータリー創立の大きな目的が会員同士の物質的相互扶助であったため、会員各自の事業の内容が部外者に漏れないように、機密保持を徹底し、定款第10条には機密保持という項目を設けて、「例会におけるすべての方針、規則、細則、および商取引は、厳密に機密を保持するものとする。」と定めています。

なお、4回続けて例会を欠席すれば退会になると定めた一方で、例会は月に2回とし、さらに7月、8月は休会というゆるやかな規約になっています。

1908年12月1日の日付が入った、会員相互取引報告書が残っていますが、左側の欄に商品を提供した会員の氏名が、右側の欄に商品を受取った会員の氏名が書かれています。

この排他的かつ物質的相互扶助を重視するクラブ運営に関しては、世間から大きな批判を浴びるとともに、ロータリアン内部からもこれを是正しようという動きが起こってきました。これが1906年4月に起こったドナルド・カーター事件です。

フレデリック・トゥイードが、特許弁理士であるドナルド・カーターにシカゴ・クラブへの入会を勧めました。親睦と事業上の利益の向上を謳った定款を見せて入会を促したところ、クラブは対社会的奉仕活動をすべきだという理由で入会を断ります。その考え方に共感したトゥイードは、入会して内部か

ら改革を実現するように説得して、カーターはこれに同意してシカゴ・クラブに入会します。そしてこの年の12月に定款を改正して、第2条目的の第三節に「シカゴ市の最大の利益を促進し、忠誠心を市民の間に広げること。」という条文が加わりました。

ドナルド・カーターとフレデリック・トゥイードが共同でシカゴ・クラブに提出した声明文には、「全く利己的な組織は生き残ることができません。ロータリークラブとして生き残りかつ発展することを望むのならば、私たちの存在を正当化する何かをしなければなりません。私たちは何らかの市民に対する奉仕をしなければなりません。この改正は市民に対する奉仕が可能なシカゴの組織になるように、シカゴ・ロータリークラブの目的を拡大するためです。忠誠心を市民に広げて、シカゴ市の利益のために何かをすべきです。」と記載されています。

フレデリック・トゥイードとドナルド・カーターの発案で行われた対社会的奉仕活動の実践例が、ループ地区(シカゴ中心部)における公衆便所設置活動です。

シカゴ・クラブは、グレート・ノーザン・ホテルに25の市民団体の代表を集め、連合公衆便所建設委員会を設立して、行政に働きかけますが、既に施設内にトイレを持っていることを強く主張する、シカゴ醸造組合と百貨店組合の激しい妨害を受けます。

当時のループ地区で顧客用にトイレを供用していたのは、百貨店かバー位しかなく、トイレを借りる必要に迫られた通行人は、女性は化粧品を買うことと引き換えに百貨店のトイレを借り、男性はビールの一杯も飲みバーの扉をくぐらなければなりません。もし、無料のトイレができれば、これらの店の収入に影響を与えることは、誰の目にも明らかでした。交渉は長引き、土地を掘り起こすまでに2年の歳月が掛かってしまいましたが、最終的には、建設用地と20,000ドルの補助金を市当局から受け取ることに成功して、1909年に市役所と公立図書館の横に二つの公衆便所が出来あがったのです。

公衆便所設置は市民のニーズに従って市民団体を組織し、行政当局に働きかけて、実施にこぎつけたものであり、俗にいわれるような単に金銭を抛出した団体奉仕活動ではなかったことに注目しなければなりません。

対社会的奉仕活動の必要性は認められたものの、会員同士の物質的相互扶助によって事業を発展させるという目的は、その後も続けられました。1911年の全米ロータリークラブ連合会の会員名簿には、当時加盟していた24クラブについて3ページずつの情報が記載されています。1ページ目はそのクラブのクラブ名と会長、幹事の電話番号と住所や例会場所や時間が書いてあります。残りの2ページにはそのクラブのテリトリーの中にある著名な企業名、電話番号と住所が書いてあります。これは遠隔地におけるロータリアン同士の取引に使われたのです。騙すより騙される方が悪いという世の中ですから、シカゴの果物商がカリフォルニアの農園と取引したとしても、果物商に注文通りのオレンジが届く確証はありません。また農園の方にも約束通りの料金が支払われる確証がありません。しかしロータリアン同士の取引ならばお互いが信頼できたわけです。

1911年の連合会の組織表には、Local Trading Committee、Intercity Trading Committee、National Trading Committeeという委員会があります。Local Trading Committeeは自分のテリトリー内における取引を担当した委員会です。Intercity Trading Committeeは近隣都市間の取引です。National Trading Committeeは全米です。そういった会員同士の物質的相互扶助を連合会が積極的に援助していたのです。

なお、定款から親睦と事業上の利益の促進という目的が消滅したのは1912年になってからのことです。

ロータリーに奉仕という概念を提唱したのはアーサー・フレデリック・シェルドンです。彼はミシガン大学経営学部のマスター・コースで、当時としては革新的な分野であった販売学を専攻しました。その学問と自らの経験を基本として、1902年にシェルドン・ビジネス・スクールを設立して、修正資本主義を取り入れた、20世紀の経営学を教えました。

19世紀から20世紀の初頭にかけては、資本家が大きな利潤を生むために労働者が劣悪な環境の中で働かなければなりません。資本主義をもたらすこれらの社会矛盾や害悪を緩和し、かつ克服するために考えられたのが修正資本主義です。政府が公共事業などで失業者を減らしたり、法律などで公害をもたらす資本の活動などを規制したり、従業員の福利厚生を図ったりして、これらの矛盾を和らげていかなければなりません。この考え方は19世紀末からありましたが、現実には実施されたのは世界大恐慌後のことでした。

シェルドンは継続的な事業の発展を得るためには、自分の儲けを優先するのではなく自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を持って事業を営むべきだと考えました。また利益を独占するのではなくて、従業員や取引に関係する人たちと適正に再配分することが継続的に利益を得る方法だと考えたのです。

すなわち当時からすれば、来るべき修正資本主義を先取りしたアーサー・フレデリック・シェルドンの奉仕理念は極めて斬新な考え方であったと言えます。

1908年にシカゴ・ロータリークラブに入会したシェルドンは、その考え方をロータリーに導入し、1911年に、当時のロータリークラブ連合体が、そのままロータリーの奉仕理念として採択し、さらにその考え方は職業奉仕となって現在に至りました。

私の主観に満ちた解説をする前に、シェルドンの幾つかのスピーチ原稿の中から、彼の考え方を抜粋してご紹介したいと思います。

人生は海のようなものです。ギブ・アンド・テークの絶え間ない潮の満ち干が、物事を解決します。与えることが奉仕であり、受け取ることが利益または報酬です。しかし、種を播く時期が、収穫に先行するのと同様に、与えることが、受け取ることには先行しなければなりません。利益を得る経営学は、奉

仕を与える経営学でもあります。

今日、全世界にわたって広範囲に広がっている経済的、社会的な混乱の原因は、人類の大部分が、人間関係の基本的な法則を破ろうとしているからです。私たちは人類として、与えるのではなく、得ようとしています。それは結局、人類すべてを破滅させるか、少なくとも文明を破滅させて、精神的な暗黒時代に逆戻りさせること無しには済まないのです。

ロータリー哲学は財産権の敵ではありません。ロータリー哲学は、社会が組織化されている今日、金を持つことが正当かつ必要であり、将来もずっと続くことは確かだと言っているのです。

金銭は、価値の万国共通の象徴であり、事実、物質的な富は、人間の奉仕または頭脳や心や手足などの人間の力の集積を表すのです。

私たちは、生存するための三つの基本的な必要条件、衣食住を調達する手段として、金銭を持つ必要があります。人間がただ生きているだけではなく、本当に生きていくためには、衣食住以上のものが重要です。本当に生きるために、人間は文化という装いを持つ必要があります。そのためには金銭が必要です。ロータリー哲学は、交換手段としての金銭の必要性を完全に認め、財産権や正当で公正な政府を否定したり、何らかの方法で崩壊させたり破壊しようとする、如何なる哲学とも妥協しないのです。

その一方で、ロータリーは、すべての個人やすべての会社が稼ぎ出す金銭は、原因ではなくて結果であることを、大胆不敵に宣言します。公正に稼ぎ出した金銭は、奉仕の実践の対価として支払われた賃金なのです。従って、原因に遡って推論すれば、奉仕すなわち有用性が、商工業会社の存在理由であるばかりでなく、あらゆる人間活動の存在理由であることが判るのです。

今仮に、世界中の靴の製造に関するすべての人が、大会に集ったとしましょう。更に、靴の製造に使われるすべての機械類や、靴の製造技術に関するあらゆるデータが、ここに集められたとしましょう。この大会の会議中に、地震が起こって、すべての人間の命と、すべての機械と、そこに集ったすべての記録が破壊されたと仮定しましょう。突然、地球上には、靴の製造技術に関する知識を持った人間はいなくなり、機械も、記録も全くなり、靴の製造技術は、突如として失われ、われわれの前から全ての履物は姿を消してしまうのです。この出来事によって、人々は初めて、靴屋という事業は靴を売って金儲けをしているのではなく、靴屋という職業を通じて社会に奉仕している事実気付くのです。当然のことながら、これと同じ事例は、帽子や服や住居や食物や、その他人間のニーズや快適さや贅沢のために提供されるすべての職業に当てはまるのです。

現在、100 人の人に「なぜ、あなたはその職業に携わっているのですか」と質問したら、95人の人は「金儲けをするため」と答えるに違いありません。しかし、それは正解ではありません。事業を営んでいる人の95パーセントが、事業に失敗する根本的な理由は、「金儲けをするため」に事業を営んでいるからなのです。

事業が存在する唯一の正当な理由は、自分の事業を通じて社会に奉仕すること、即ち、奉仕の実践を

するために事業をしているのです。

ロータリー哲学の予測によれば、世界は、歴史上、最も長い生産期に入ろうとしています。この予測は、生産と適正な分配を通じて世界に奉仕することが、すべての利益を保存する最善の道であるという事実を認識することです。

1. 自然的義務と責任の履行を通じた、従業員に対する雇用主の奉仕と、従業員に対する責任。経済的義務だけではなく、道徳的義務や教育的義務の履行。

2. 仕事の正しい質と仕事の正しい量、家庭や事業上や市民としての行動の正しいモードを通じた、雇用主に対する従業員の奉仕。

3. 雇用主と従業員の合同チームから、商工業関係者や一般購買者等の第三者に対する奉仕  
これが、すべての人たちに対する平和と力と豊かさへの道なのです。

雇用主は忘恩的な行為が起こっても、自らの経済的、人間的関心、教育的義務のすべてを実現させましょう。雇用主がそうするのは、そうした方が勘定に合うからでも温情主義的な方法だからでもなく、正しい方法だからです。そうすれば、建設的な反作用がすぐ、始まるでしょう。経済的義務に関しては、恐怖とか感情によって、奉仕の価値以上のものを支払うのではなく、その価値に見合う額を支払ってください。なぜならば、そうすることが正しいからです。現在、労働者は極めて利己的です。しかし、仕事の量を減らして、同時に、多くの賃金を得ようとする個人や個々の組織は、火力を減らして、熱を増加させようとする人に似ています。それは自然の法則に合いませんし、うまく機能することもできません。自然の法則を破ろうとする組織は、個人と同様に、自らを破滅させるのです。一方、私たちは、「無知こそ私たちの唯一の罪。」であることを知るのであります。現在、そして過去における労働者と資本家、および資本家と労働者間の罪は、すべて自然の法則に対する無知が原因です。しかし、「労働者」は古い時代ほど無知ではありません。今日では、非常に知的であり、この自然の法則の実態を理解し、時期を逸しないうちに、崇高な奉仕を開始することでしょう。

私たちの従業員が、自らを忘れていているという世界的な問題に、そんなに絶望することはないのです。すべてのロータリアンの事業は、それが存在する地域社会における道しるべとして、雇用主から従業員へ、従業員から雇用主へ、また労使双方が一体となって会社から顧客に対する、すべての自然的義務、債務、責任を遂行する光を当てなければならないのです。商工業の顧客こそが、結局のところ、「ビッグ・ボス」なのです。彼らが私たちを拒否すれば、私たちはすべて仕事を失うのです。

シェルドンの考え方は次の二つに要約されると思います。

その一つは職業に関する考え方です。自分の儲けを優先するのではなく自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を持って事業を営めば、結果として継続的な事業の発展が得られるという思考です。彼は商取引において、顧客に対して優れた奉仕をすることが、永続性を保ち、従って利益を累進的に与えてくれる顧客を確保するための唯一の方法であると述べています。

シェルドンは、持続して繁栄し発展しているいくつかの企業に共通して見られる特徴を、サービスと名づけました。販売する商品や提供するサービスの品質が高いことが大切です。特に食品の場合には味覚に加えて安全性が重要なポイントになります。

適正な価格で品物や技術を顧客に提供することも大切です。オイルショックの時に、品薄に乗じて法外な価格を設定し、マーケットが正常に戻ったとき、誰からも相手にされなくなった例などは、記憶に新しいと思います。いつでも、どの場所でも、顧客がリーズナブルだと感じる価格を設定することが必要です。ただし付加価値の高い商品には高い価格がつくことは当然です。

事業所における経営者、従業員の接客態度もサービスです。つっけんどんな態度をとられると、二度と行きたくなくなるものです。十分な品揃えもサービスです。公正な広告もサービスです。取り扱いの商品に対する知識も大切です。最近のように、異業種への転向が盛んな時代では、商品知識も不十分のまま、単に売りっぱなしにする店がかなりあるようです。商品のアフター・フォローも大切です。いっぺん自分の店で売った品物に対して責任を持つことが大切です。こういったものを総称して、彼はサービスという言葉を使ったのです。

こういうことが守られている店には、もう一度行ってみようという気が起こりますし、親しい人を紹介しようという気も起こります。一現さんだけを相手にしていたのでは、事業の発展は望めません。リピーターが再三訪れるからこそ、事業が発展するのです。たとえ一時的に客が集ったとしても、その客が一回来ただけで愛想を尽かし、二度と訪れなかったら、その店は必ず衰退します。これは製造業であらうと、小売業であらうと、医者であらうと同じです。

これは現在でも立派に通用する真理です。シェルドンの職業奉仕理念は、このことを理詰めに説いているのです。

もう一つは人間関係学から見た利益の適正な再配分です。私たちがロータリアンの身分を保っているのも、ロータリーの会合に出られるのも、ひとえに自分の事業が上手くいっているからです。これは、事業主の力量によるところが大ですが、会社で働いてくれている従業員、事業所に色々な品物を納めてくれている取引業者や下請け業者、事業所から品物を買ってくれる顧客、さらに、その事業が、その町の中で普遍的に営んでいけるのは同業者がいるおかげであることを忘れてはなりません。

事業主を取り巻く全ての人たちのおかげで事業が成り立っていることを考えるならば、得た利益を、事業主が一人占めするのではなく、事業に関係する人たちと適正にシェアをしながら、事業を進めていけば、必ずその事業は発展していくはずで、そのような経営方針を採用して事業が発展していく様子を、自らの事業所をサンプルとして実証すれば、同業者の人たちは、その事業態度を真似るに違いありません。そうすれば、業界全体の職業倫理が上がっていくというのが、**He profits most who serves best**のもう一つ意味です。この考え方は今も昔も変わらない真理です。

シェルドンの考え方がロータリーの職業奉仕の理念として確定し、それをロータリアン自身の事業所に適用しようとして作られたのが道德律です。

アイオワ州シューシティ・クラブのロバート・ハントが中心になって、その具体的事項を全国のロータリアンから募集したところ、数百にもものぼる提案が集まりました。しかし、彼は個人的事情のため、その役割を同じクラブの会員であるパーキンスに譲りました。

パーキンスはシューシティ・クラブの友人数名を委員に任命しました。その中には、かつてシェルドン・ビジネス・スクールの学生であったジョン・ナトソンも含まれていました。

彼らは、それを500語に文章にまとめあげ、1914年のヒューストン大会に提出しましたが、この大会では、この道德律をすべてのロータリアンに送って、研究することが決まり、1915年のサンフランシスコ大会においてほぼ原文のまま採択されて、公式な道德律となりました。

## 職業人のためのロータリー道德律

1915年7月19-23日、サンフランシスコにおける第6回国際ロータリー・クラブ連合会年次大会によって採用された。

この職業倫理基準は、我々の共通な人間性に基づく思いやりを心に留めるものである。職業上の取引や野望や諸関係は、常に社会の一員として自分が果たす最高の義務を考慮すべきである。職業生活のあらゆる場面において、また、自分が直面するすべての責任において、先ず最初に考えなくてはならないことは、その双方を終えたときに始めて果たされる責任と義務を満たすことである。人間の理念と業績の水準をそれに気づいたときよりも、少しでも高めなければならないし、このことを考えることこそ、ロータリアンとしての私の義務である。

### 倫理基準

第1条. 自分の職業は価値あるものであり、社会に奉仕する絶好の機会を与えられたものと考えること。

第2条. 自己改善を図り、実力を培い、奉仕を広げること。それによって、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というロータリーの基本原則を実証すること。

第3条. 自分は企業経営者であるが故、成功したいという大志を抱いていることを自覚すること。しかし、自分は道徳を重んじる人間であり、最高の正義と道徳に基づかない成功は、まったく望まないことを自覚すること。

第4条. 自分の商品、自分のサービス、自分のアイデアを金銭と交換することは、すべての関係者がその交換によって利益を受ける場合に限って、合法的かつ道徳的であると考えること。

第5条. 自分が従事している職業の倫理基準を高めるために最善を尽くすこと。そして、自分の仕事のや

り方が、賢明であり、利益をもたらすものであり、自分の事例に倣うことが幸福をもたらすことを、他の同業者に悟らせること。

第6条. 自分の同業者よりも同等またはそれに優る完全なサービスをすることを心がけて、事業を行うこと。やり方に疑いがある場合は、負担や義務の厳密な範囲を越えて、サービスを付け加えること。

第7条. 専門職種または企業経営者の最も大きい財産の一つこそ、友人であり、友情を通じて得られたものこそ、卓越した倫理にかなった正当なものであることを理解すること。

第8条. 真の友人はお互いに何も要求するものではない。利益のために友人関係の信頼を濫用することは、ロータリーの精神に相容れず、道徳律を冒瀆するものであると考えること。

第9条. 社会秩序の上で、他の人たちが絶対に否定するような機会を不正に利用することによって、非合法的または非道徳的な個人的成功を確保することを考えてはならない。物質的成功を達成するために、他の人たちが道徳的に疑わしいという理由から採らないような、有利な機会を利用しないこと。

第10条. 私は人間社会の他のすべての人以上に、同僚であるロータリアンに義務を負うべきではない。ロータリーの神髄は競争ではなくて協力にあるからである。ロータリーのような機関は、決して狭い視野を持ってはならず、人権はロータリークラブのみに限定されるものではなく、人類そのものとして深く広く存在するものであることを、ロータリアンは断言する。さらに、ロータリーは、これらの高い目標に向かって、すべての人やすべての組織を教育するために、存在するのである。

第11条. 最後に、「すべて人にせられんと思うことは、他人にもその通りにせよ」という黄金律の普遍性を信じ、我々が、すべての人にこの地球上の天然資源を機会均等に分け与えられた時に、社会が最もよく保たれることを主張するものである。

職業奉仕の理念が完成し、ロータリーの職業奉仕のモットーが確定し、具体的な活動指針となる道徳律が完成しました。そしてそれから後のロータリー運動は、その道徳律をいかに自分の事業所や所属する業界に適用するかという運動に変わっていきました。

道徳律が作られた1915年当時はまだ経済規模が小さく、ほとんどの事業所は資本家が経営者を兼ねている時代でした。従ってロータリーの奉仕理念は経営者であるロータリアンの意志によって素直に事業経営に反映されたものと思われます。

ロータリアン自身が同業組合に入って、すなわち医者には医師会に、飲食店は食品関係の業界団体に入って、その業界の指導的立場になって、その業界に道徳律を広める活動が活発に行われます。1925年の



RIの発表によると、ロータリアンが自ら制定に関与して、正しく実行されている、全世界の企業の道徳律は145に上ることが報告されています。

業界が採用した道徳律の中で有名なのが、ガイ・ガンディカーが作ったレストラン協会の道徳律です。

年労働者の深夜労働が当たり前だった時代に、現在の労働基準関係諸法や就業規則とまったく引けを取らないような規約を定め、更に職業倫理基準、接客態度、サービス、取引関係、同業者対策、行政との関係、こういったものを、こと細かく決めて、それを守っていったのです。

1920年から1930年にかけての10年間は、ロータリーの職業奉仕が社会に大きな影響を及ぼした爛熟期といえます。1929年の世界大恐慌を受けて、アメリカ大統領は共和党から民主党に代わります。1932年にはルーズベルト大統領によってニューディール政策が実施されます。金本位性の廃止、TVA開発などの公共事業の創出、国家産業復興法に基づく企業活動と労使関係を規制する政策労使の協調と国家の所得再分配政策や、完全雇用政策による失業対策や、恐慌の発生を抑制する経済計画によって、世界の経済は修正資本主義の時代に突入します。一応経済危機を回避したかのように見えたニュー・ディール政策も、結局は功を奏せず、1937年の夏には「恐慌の中の恐慌」と呼ばれるほどの危機的状況を迎えます。そこでアメリカ政府が選択した道は、当時、緊張が高まりつつあった国際情勢を利用した軍事産業の積極的な育成であり、アメリカ経済は第二次世界大戦によって、やっと不況から抜け出すことに成功するのです。

戦後の修正資本主義に基づく経済発展はすさまじく、企業は巨大化していきます。資本家一人の力で企業を経営していくのは困難となり、資本家とは別に企業経営を専門的に行う経営者が出現します。もちろん資本家が経営者を兼ねているばあいもありますが、企業経営に秀でた人を外部から招聘することも盛んに行われました。いわゆるサラリーマン社長の出現です。ここで、従来の資本家対労働者の構図は、資本家対経営者対労働者(従業員)の構図に変化していくのです。

さらに企業が巨大化すると各地に支店や出張所ができてその所長クラスの人たちがロータリー活動に加わってくるようになりました。

資本家がロータリアンであった時代、すなわち企業のオーナーがロータリアンであった時代は、ロータリーの職業奉仕理念はただちに職場全体に浸透することが可能でした。しかしサラリーマン社長や支店長には絶対的な権限がないために、必ずしもロータリーの理念通りに企業経営をすることが不可能となってきました。

元来ロータリークラブは絶対的な権限を持っている零細企業のオーナーが集まって、理想的な職業奉仕理念を編み出し、それを自らの企業に取り入れて実践に移すための組織ですから、企業が巨大化して簡単に軌道修正ができなくなったり、絶対的な権限がない人がロータリアンになることは想定していなかったと思われます。ロータリーの奉仕理念を遵守するために、首を覚悟で上役に抗議する支店長を期

待することは、事実上無理なことでしょう。個人事業家は別として、例会において学んだ職業奉仕の理念を、自分の職場で実践に移すという効果はもはや期待できなくなってしまいました。

1948年にパーシー・ホジソンが「Service is my business 奉仕こそわがつとめ」を書いた直後に、RIの職業奉仕委員会が廃止になり、1963年の「職業分類の概要」の発行を最後に職業分類への関与からも手を引いてしまい、事実上RIのプログラムから、職業奉仕は消えてしまい、その後の世界経済や産業構造の大きな変化に適応できないまま現在に至ったのです。

さて1970年代頃から企業の国際化が進んでグローバル時代に突入してすると、資本家対経営者対労働者という、三者対立の中に、第四の存在とでもいうべき、投資ファンドに代表される疑似資本家が増えてきて、資本家、経営者、疑似経営者、労働者の四極対立の構図になるわけです。この四極対立の構図のことを新資本主義と表現しています。

この疑似資本家は自分たちは資本家ではありませんが、お金を持っている人たちから資金をかき集めて、その資金をレバレッジなどの技法を使って何十倍いや何百倍にも増幅させて、オイル、穀物、不動産などあらゆる分野にデリバティブ(先物投資)をかけて、人為的なバブル景気を作りました。ガソリン、穀物価格、貴金属の高騰やドバイにおける異常とも言える不動産景気などは、すべて投資ファンドによって引き起こされたものです。さらに問題を大きくしたのは投資ファンドにつき込まれた資金が、個人資産やオイル・マネーのみならず、大きな利回りを期待した世界中の銀行や年金がこれに飛びついたことです。日本の企業年金も例外ではありません。

アメリカではスチール・パートナーズなどの数多くの投資ファンドが生まれ、その後ほとんどの投資銀行や証券会社がこれに加わりました。日本ではホリエモンや村上ファンドがこれを真似し、メガ・バンクがこれに続きます。

テキサス州ヒューストンに本拠を置く総合エネルギー企業エンロンは、不正なガスと電力取引によって巨大な利益をあげました。しかし不正な株価操作と粉飾決算が内部告発によって表面化して結果的に倒産しました。

ライブドアは世間の誰もがやらないような方法で法律の抜け道を潜って、会社の実態の伴わない株式分割をしたり、時間外取引や投資事業組合やペーパー・カンパニーを使って、株の買占めや粉飾決算をしました。

これらの二つの会社の共通点は、株価至上主義に走ったあまり、本来は会社の業績を示す指標であるはずの株価を、利益のかさ上げや、損失のとばし、デリバティブによって人為的に上げようとしたことにあります。物言う株主として脚光を浴びた村上ファンドはニッポン放送株のインサイダー取引によって実刑判決を受けました。堀江氏や村上氏のやり方に対して、ファンドだから「安ければ買い、高ければ売る」のは当然だという擁護論もありますが、社会に対する奉仕を第一義に考えず、自分の利益を優

先させたことは、ロータリーの職業奉仕理念とは程遠いことは明らかです。

敵対的買収で有名なスチール・パートナーズについても同様なことがいえます。東京高裁の下した判断が世界の経済界の常識に反するという批判もありますが、金を儲けることだけを目的としたブルドッグソースや明星食品に対するTOBは果たして社会に対する奉仕なのでしょうか。M&Aと書くと格好よく聞こえますが、会社や従業員や消費者の利益のためのM&Aでなければ、これは「会社乗取屋」に過ぎません。「会社乗取屋」を含めた世間の人達が疑義を抱くような方法で巨万の富を築くような事業は、ロータリーが定義する世に有用な職業ではなく、虚業に過ぎないのです。ロータリーは、こういった事業をまともな職業だと判断して入会を許した経済団体の轍を踏むようなことがあってはならないのです。

職業は社会に奉仕するために存在することを忘れてはなりません。

すべてを市場の原理に委ねる新資本主義を許したのがアメリカのロータリアンを基盤にした共和党政権であり、日本の経済界もこれに追従していたわけです。

アメリカの共和党は、個人の自由と責任を重視する政策を取っています。経済政策でもなるべく政府による規制を排除して市場の原理に委ね、治安でも自己防衛を原則にするために銃器の所持を認め、医療費も自分で支払うことを原則として、その代わりに、税金の安い小さな政府を目指します。これに反して民主党は、経済政策にもある程度の制限をかけ、医療や教育や社会保障を充実する代わりに、大きな政府にならざるを得ません。

どちらが理想的かについては意見の分かれるところですが、ごく最近になって民主党のオバマ大統領が就任するまでは、RIやアメリカのロータリークラブの中にはネオ・コンサーブティブスや新資本主義の考え方が深く染み込んでいたことは間違いのない事実です。

自分の儲けのためだけにM&Aやデリバティブやレバレッジとあらゆる手段を使って錬金術に狂奔することを許す、共和党の資金源となったエンロンを始め、石油や穀物や貴金属や不動産を買い漁った投資ファンドを生み出した揚句、サブプライム・ローン問題に端を発した世界経済恐慌をもたらしました。アメリカの共和党政権の外圧によって、日本においてこの考え方を積極的に導入したのが、小泉・竹中ラインです。ホリエモンを時代の寵児として誉めたたえ、「わが弟」と壇上で共に手を高く掲げた当時の自民党幹事長の姿が目には浮かびます。

この頃から、資本家対労働者という基本的な対立の構図の中に、労働者対労働者という新たな対立の構図が現れます。それは正規雇用者対非正規雇用者の対立です。すなわちニートとかフリーターとか言われる非正規雇用者と、従来からの終身雇用制の中にいる正規雇用者です。これは企業がグローバル競争に勝つために、有能な人たちはしっかり確保する代わりに、単なる労働力として使う人たち低賃金で雇うということです。

さらにもっと大きな変化が起ころうとしています。それは非正規雇用者よりももっと低賃金で雇用す

ることができる移民労働者の存在です。アメリカやヨーロッパではさして珍しいことではありませんが、日本でも、日系ブラジル人労働者やインドネシアやフィリピンからの看護師など今後避けることができない問題となることでしょう。

かつて私たちは、陰日なたなく額に汗しながら、もくもくと働く姿を尊いものだと教えられてきました。企業は永年雇用、年功序列を原則とし、労働者は企業に忠誠を誓うことを当然だと考えてきました。しかし新資本主義が闊歩しだした昨今ではその考え方が大きく変化してきました。労使の目的意識が変化し、雇用体系も変化してきました。労働者側も効率よく働くことが美德とされ、生活費を稼ぐのに必要な時間だけ働いて、余暇を楽しむという風潮さえ生まれました。職業に関する目的も大きく変化し、企業は利益の追求を第一義に考えて会社を運営し、労働者は高い収入を得ることを第一義に考えて働くようになってしまいました。

何れの生きざまが正しいのかは、私には判断し兼ねます。ただ、企業経営に関しては、すべての規制を外して市場の原理に任せ、さらに倫理感による規制を排除すれば、究極の拝金思想に走った何でもありの弱肉強食のハゲタカの社会、すなわち新資本主義に陥ることが実証されました。しかしその虚構の社会も巨額の年金基金や現実の通貨の何百倍もの借金を残して世界的な不況をもたらして崩壊することも同時に学んだのです。

資本家が利益を独占していた時代に、ロータリーの奉仕理念は生まれました。そうして、利益の適正配分や従業員の福利厚生といった修正資本主義を先取りしながら、ロータリー運動は発展していきました。その段階からロータリーは職業奉仕の道を外れて、ボランティア活動に進路を変更しました。その間にロータリアンを取り巻く社会構造も経済状況も大きく変わってしまいました。

ロータリーの職業奉仕の理念は、アーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した企業経営の理念を踏襲したものであり、自分の利益を優先するのではなく、自らの職業を通じて社会に奉仕することによって、その見返りとして適正で継続的な利益が得られることを説いているものです。

この考え方はロータリーの奉仕理念すなわち哲学として、いつの世になろうとも変わるものではありません。しかしその理念を現実の社会に適用しようと思うなら、その実践方法は、社会構造や経済の変化に従って変えていかなければなりません。それを怠ったことが、今日ロータリー運動の衰退に繋がる大きな原因ではないでしょうか。

新資本主義が幅を利かせた現在の世相は、ロータリーが創設された19世紀初頭の無秩序な自由主義の世相と酷似しています。すべてを市場原理に任せてしまえば、弱肉強食の獣のような生存競争に陥ることを私たちはすでに経験したはずです。その経験の中からロータリー運動が生まれたことを思い起こしながら、職業奉仕理念を今一度見直す必要があります。

1920-30年代のロータリーが、当時当然として行われていた不合理な商取引を是正して法制化したように、ロータリーの職業奉仕理念に反するような新資本主義の悪しき商取引を是正しなければなりません。

ん。

当然のことながら、ロータリーの職業分類の中には自らの利益のために他人の資本を活用する投資ファンドのような疑似資本家は含まれておりません。そういった事業を虚業として入会を否定するのも一つの考え方かも知れません。しかし、むしろそういった人を積極的にロータリー運動に参加させることによって、彼らの考え方を変える努力が必要なのかも知れません。

サブプライム・ローン問題に端を発した世界経済恐慌という大きな代償を払って、やっとな全世界の職業人が新資本主義に疑義を感じ始めた今こそ、ロータリアンは経営者の立場から、株主や従業員はもちろん同業者や顧客も満足するような職業奉仕理念を根底にした、正常な企業経営ができるように、リーダーシップを発揮すべきではないでしょうか。最後にロータリークラブ創立の原点である親睦と会員の事業の発展について今一度考えてみたいと思います。国際ロータリーはすでに会員相互の親睦も事業の発展も職業奉仕も捨てて、人道的奉仕活動に専念するボランティア組織に転換していますから、ここではあえて、日本のクラブ・レベルにおけるロータリークラブ創立の原点について考えてみます。

日本のロータリークラブは何故、衰退の一途を辿っているのでしょうか。それはロータリーに入るメリットが余りにも少ないからではないかと思えます。世界で一番高い会費を払って、その上任意だとは言いながら、半ば強制的にロータリー財団や米山奨学会の寄付を割り当てられます。その見返りとして得られるものは、ロータリーの友情と人道的奉仕活動に参加したという達成感かも知れませんが、支払った会費や寄付金に比べて、あまりにも少ないメリットとあまりにも低い世間の評価が、衰退の大きな理由になっているのではないかと思えます。

ロータリーの創立当初、我も我もこの運動に参加したのは、大きなメリットがあったからであり、今、ふたたびこのメリットを取り戻すことが、ロータリー運動を活性化する最善の方策ではないでしょうか。

いつ倒産の危機に遭遇するかを悩むのは、現在も全く同じです。むしろ100年に1度の経済危機が叫ばれている現在の方が深刻とも言えましょう。企業経営上の問題点を胸襟を開いて相談できる環境がクラブ内にあるでしょうか。自分が直面する問題を親身になって相談できる友人がクラブ内にいるでしょうか。ロータリークラブ創立の原点が親睦にあったことを思い起こして、今一度クラブ内に真の親睦を確立する必要があります。

そのためには、いたずらに会員増強に奔走するのではなく、会員の職業分類を含めた会員の資質を今一度洗いなおす必要があるのかも知れません。クラブ内にライバルや利害関係に深く関わる会員が存在すれば、真の親睦は成り立ちません。

業界を代表する経営者が会員である原則からは、会員同士は最高の取引先であるはずですが。取引を会員同士だけに限定したり、会員同士の取引に特別の配慮を要求することに、世間の批判を浴びたわけで、広く広げた取引先の中から会員を選ぶことは、何の支障もありません。業界の中で最も優れた人を

会員として選ぶことで、そのクラブもその人が属する業界全体も繁栄していくことを忘れてはなりません。

クラブ・ライフを活性化するためには、ロータリアンに大きなメリットを与えなければなりません。そのメリットこそ会員同士の深い親睦と会員の事業の発展であり、そのメリットによって活性化されたクラブ・ライフによって、初めてロータリーの奉仕理念に基づいた奉仕活動の実践ができるのです。

## 職業奉仕とは何ですか？

「The Rotarian」誌の1967年2月号から1973年12月号まで、「INSIDE ROTARY」というコラムが連載されました。著者については記載がありませんが、毎号のコラムの最後にはRI公式文献の紹介と注文先が記載されていることから、「The Rotarian」誌の編集者か事務総長が書いたものと想像されます。

その1972年9月号に「職業奉仕とは何ですか」という文章が掲載されています。この一節を前原勝樹パストガバナーが「職業奉仕・四つの反省」という表題で翻訳されています。

今回、その原文を入手しましたので、その全文をご紹介します。なお「職業奉仕・四つの反省」というタイトルは前原パストガバナーがお付けになられたもので、原文には表題はなく、「職業奉仕とは何ですか?」という文章で始まっています。

職業奉仕とは何ですか？

簡単に定義すれば、あなたの職業を通じて他人を助けることです。

最初のロータリークラブを創立するに当たって、ポール・ハリスと彼の友人たちは、異なった職業の気の合った仲間が定期的集まって、アイデアを交換しながら友情を育み、仲間同士が助け合うことを考えました。

職業奉仕とは、職業分類に基づいた会員制度という、まさしくロータリーの原点とも言える原則に基づいたものなのです。職業の代表者として、各会員はロータリーの職業上の技能、特に自らの事業活動をロータリアンでない人に分け与えることが義務付けられています。

奉仕クラブを作ることを考えている地域社会のある指導者は「職業分類の原則と職業奉仕に関する考え方が、他のクラブとは違うので、挑戦してみたくなりました。私は、ロータリークラブを作ることに賛成します。」と、拡大のためのガバナー特別代表に自分の考えを述べました。職業奉仕はすべての職業人、すなわち従業員、同業者、顧客、供給者相互関係の基本的な要素です。職業奉仕を真摯に学ぶロータリアンは、奉仕こそ自分のつとめであると信じています。ユニークなロータリアンの素晴らしい計画は、あなた方ロータリアンの重大な責務なのです。

あなたはあなたのクラブにおける職業を代表しています。あなたは他の奉仕分野についてはすべての会員と義務を共有していますが、あなただけがあなたの事業とクラブにおける職業奉仕の責任を負っているのです。

ロータリーに入ったからには、あなたは最も高い倫理基準を掲げ、様々な取り引きにおいて、その倫理基準を守るように心がけなければなりません。

顧客に対する対応

あなたが提供できる最良の品質、最高の技術を提供していますか？

あなたは、礼儀正しく、正直ですか？

従業員に対する対応

満足する報酬を与えていますか？

安全で快適な職場を提供していますか？

従業員との紛争に公正に対処していますか？

忠誠、正直、好意の手本を示していますか？

同業者に対する対応

彼らに対して公正な態度で接していますか？

誠実さを感じとれる行動をしていますか？

業界において共に手を携えて、職業倫理の高揚に努めていますか？

納入業者に対する対応

友好的な関係ですか？

口約束であっても正式な約束として守りますか？

職業奉仕とは、会員になったあらゆるロータリアンに課せられた個人的な義務です。ロータリークラブは、新会員が入会した時だけではなく、その後もずっと、この義務を強調しなければなりません。そして、クラブは、義務を果たしているかどうかを各会員に尋ねる権利と義務を持っているのです。

職業奉仕は難しすぎますか？

宗教の分野や心理学や職業倫理や法律だと感じるような微妙な領域に触れることだというロータリアンもいます。しかしながら、職業奉仕は個人の宗教や倫理的な原則の代りをするものではなく、事業における倫理を適用する方法を提供するものなのです。



## なぜロータリーに入会するのか？

リチャード・キング

1. 友情ますます複雑化する世界で、ロータリーは、最も基本的な人間のニーズの一つである友人と親睦を提供します。これは1905年にロータリーが創設された2つの理由の中の1つです。
2. ビジネス上の発展ロータリーが創設されたもう1つの元々の理由です。誰でもネットワークが必要です。ロータリーは全てのビジネス社会を網羅する横断的な組織です。会員は、あらゆる職業の人々が参加しています。ロータリアンはお互いに助け合い、団体として他者を助けます。
3. 個人的成長と発展ロータリーの会員は、人間関係を発展させ、自身を切磋琢磨するために、教育を受け、個人的に成長し続けます。
4. リーダーシップ開発ロータリーは、指導者や成功者から成る組織です。ロータリーで役職に就いて奉仕することは、いかにしてリーダーたちを奮起させ、影響を与え、導くかという、リーダーシップの大学教育のようなものです。
5. 地域社会の市民たることロータリー・クラブの会員となることは、より良い地域社会の構成員となることです。一般に、ロータリー・クラブは地域社会の最も活動的な市民から構成されます。
6. 教育の継続ロータリーでは、毎週、地域社会、国、世界で何が起っているのかという情報を与えるプログラムが用意されています。さまざまな講演者が各人各様な議題について話します。
7. 楽しみロータリーは楽しい所です。大変楽しい所です。どの会合も楽しく、クラブ・プロジェクトも楽しく、社交活動も楽しく、奉仕も楽しいのです。
8. 人前で話す術の養成ロータリーに入会する人々の多くは、人前で話すのを怖がります。ロータリーは人前で講演するための自信やコツを身に付けさせ、その機会を与えます。
9. 世界の市民たることどのロータリアンも「国際ロータリー」と書かれたピンを身につけます。そして、その誰もが188カ国、地域にある28,000のクラブへの出席を歓迎され、奨励さえされています。地球上で、ロータリー・クラブのない所はほとんどありません。各自の地域社会で、世界の地域社会で、直ちに友人を持つこととなります。
10. 旅行中の援助ロータリー・クラブは至る所にあるため、これまでに多くのロータリアンが、旅先で、医師、弁護士、ホテル、歯科医、助言など必要なものをロータリーを通して即座に得ています。
11. 余興どのロータリー・クラブや地区にもパーティーや活動があり、会員の職業人生に気分転換をもたらしています。ロータリーの開催する学術会議、大会、協議会、研究会では、ロータリー情報、教

育、奉仕の他に余興を提供しています。

12. 社交術の養成毎週、そして様々な行事や活動の場で、ロータリーは各自の対人、社交術を養成します。ロータリーは人が好きな人々、あるいは人を好きになりたい人々のための場です。

13. 家族のためのプログラムロータリーは、世界屈指の青少年交換プログラムを提供しています：即ち、将来のロータリアン候補者のための高校や大学のクラブ、配偶者のためのクラブやプログラム、家族が家族であることの価値を高め、発展させるための活動をします。

14. 職業技能各ロータリアンは、各自の職業や専門職務の発展に貢献すること、すなわち、委員会で奉仕することや、各自の仕事や職業について青少年を指導することが期待されています。ロータリーは、会員ひとり一人がより良い医師、弁護士、教師など（何であれ生計を立てている職業）になるよう援助します。

15. 倫理感の醸成ロータリアンは各自の倫理基準である4つのテストを実行します。ロータリアンは、職業上および個人的関係において倫理的であることが期待されています。

16. 文化的意識世界中で、実際ロータリーにはほとんど全ての宗教、国家、文化、人種、信条、政治的信条、言語、皮膚の色、民族性が存在します。あらゆる背景を有する最も著名な世界市民の断面図です。ロータリアンは他の文化について理解し、至る所で人々を愛し、人々と共に働くことを学びます。その過程において、自国のより良い国民となります。

17. 名声ロータリーの会員は卓越した人々です。実業界、専門職務、芸術、政府、スポーツ、軍事、宗教、その他あらゆる部門の指導者です。ロータリーは世界最古の最も信望の厚い奉仕クラブです。会員は、管理職、経営者、専門職者、すなわち、意思決定を行い、方針に影響を与える人々です。誰もがロータリーへの入会を勧誘されるわけではありません。

18. 好人物との交際何にもまして、ロータリアンは好人物です。地上で最も好ましい人々です。彼らは、重要人物であることは好ましいが、好人物であることの方がもっと大事だという方針を堅守する重要人物です。

19. 「公式信条」のないことロータリーには密かな握手も、秘密の方針も、公式信条も、秘密の会合や儀式ありません。ただ他者を助けることの重要性を信じる男女のための開かれたクラブです。

20. 奉仕する機会ロータリーは奉仕クラブです。その仕事は人類であり、その製品は奉仕です。ロータリアンは社会、すなわち地元地域社会と国際地域社会の両方に奉仕します。このことは、おそらくロータリアンになる第一の理由でしょう。すなわち、誰か他者のために何かをする機会を与えられるのです。

## 女性会員入会の歴史

ロータリーにおける女性会員の躍進ぶりは目覚ましく、現在188,000名の会員、63名の地区ガバナー、1名のロータリー財団管理委員と理事を擁する大きな存在となりました。しかしその躍進の陰には、50年にわたる激しい議論が続いたことを忘れてはなりません。その歴史を過去の規定審議会の議事録から抜粋してみました。

### 1950年

RI国際大会で、インドのAhmedabad RCより、標準ロータリー・クラブ定款から「男性」という言葉を削除するという制定案50-10が提案されましたが、否決されました。

### 1964年

インドの305地区および315地区より、女性を名誉会員に選挙出来るよう標準クラブ定款を改正するという制定案64-5、64-6が提案されましたが、これらは撤回されました。

さらにセイロンのMount Lavinia RCが女性の入会を認めるという制定案64-15を提案しましたが、これも撤回されました。

### 1972年

規定審議会に、米国のUpper Manhattan RCが、会員資格の性別に関する制限を排除する制定案72-48を提案しましたが、否決されました。

### 1977年

1977年の規定審議会には、女性会員を認める5つの制定案が提出されましたが、いずれも否決されました。

77-16性別による会員資格の制限を禁止する件。アメリカ

77-35婦人のロータリー・クラブ名誉会員を認める件。ブラジル

77-70ロータリー・クラブに婦人の会員を認める件。インド

77-75性別による会員資格の制限を禁ずる件。スウェーデン

77-94ロータリー・クラブの会員は男子でなければならないとする規定を廃上する件。インド

### 1978年

米国カリフォルニア州デュアルテ・ロータリー・クラブは、RI定款と標準ロータリー・クラブ定款に反して女性の会員を入会させたという理由で、国際ロータリーへの加盟を終結されました。

### 1980年

制定案80-50ロータリー・クラブにおける会員の資格条件に関して、RI定款・細則ならびに標準ロータリー・クラブ定款から、ロータリー・クラブ会員を男子とする文言をすべて抹消して婦人の入会を認めるか否かをクラブの選択に委せるという提案が提出されましたが否決されました。

### 1983年

デュアルテ・クラブが起こした訴訟で、カリフォルニア州最高裁判所は国際ロータリーを支持する判決を下しました。

規定審議会において制定案83-122国際ロータリー定款・細則および標準ロータリー・クラブ定款か

ら、ロータリー・クラブの会員を男子とすると記載しているすべての文言を削除する提案が、米国メイン州エルズワースRC他より提出されましたが否決されました。

#### **1986年**

規定審議会に、制定案86-136国際ロータリー定款・細則、標準ロータリー・クラブ定款からロータリー・クラブ会員は男子であると言及した箇所を削除しようという提案が米国ニューヨーク州ブロンクスRC他から出されましたが否決されました。

#### **1987年**

米国連邦最高裁判所は、ロータリー・クラブが性別を理由に女性を会員として拒否することはできないという判決を下しました。

デュアルテ・ロータリー・クラブは1986年9月にさかのぼってRIに復帰加盟しました。

#### **1988年**

RI理事会は、カナダにおいても女性会員を入会させる方針を発表しました。

#### **1989年**

規定審議会は89-54、89-55、89-56、89-57、89-58、89-59において女性会員の入会を承認しました。

## 戦後のRI復帰

古いRI理事会議事録を入手しました。その中より戦後における日本ロータリーのRI復帰に関する記録を抜粋してご紹介します。

1946年1月、東京水曜クラブの小松隆会長が、GHQのバラード大佐に託したRI復帰を求める要望書が、ラブジョイ事務総長を経由してRI理事会に提出されました。1946年5月に開催された理事会議事録には次の記録があります。

### 1946年5月理事会議事録

#### 第270号日本のクラブの復帰の件

報告:日本の旧東京ロータリークラブの元会員から寄せられた文書が、理事会に報告された。その内容は、日本の元ロータリークラブの会員はアメリカやその他のロータリー世界の感情や事情が許せば、ロータリーの親睦に復帰することを希望すると記載されている。さらにその手紙には、日本ではロータリー解散後も多くの旧ロータリークラブが他の名前の下で、現在も例会を継続していることが記載されている。

決定:残念ながら、理事会は日本のロータリークラブ復帰の問題に関して、現在いかなる措置も取ることはできない。

1947年1月に大阪金曜クラブの飯島会長は、元大阪クラブ会員May氏を通じて、RI復帰に関する具体的な方法を問い合わせる書簡をRI本部に送りました。1947年1月RI理事会議事録には次のように記載されています。

### 1947年1月RI理事会議事録

#### 第197号日本のロータリークラブの復帰の件

報告:理事会に、現在、大阪金曜クラブの会長をしている、日本の旧大阪ロータリークラブの元会員から受け取った書簡が報告された。旧大阪ロータリークラブはあらゆる意味で存続しており、貴組織が加盟認証することを切望している。大阪ロータリークラブは早急にRIによる公式な認証を受けたいという希望を持っており、どうすれば復帰できるかという助言または指示を受けたい。

決定:理事会は日本のロータリークラブの復帰に関して1946年5月の決定を再確認する。すなわち、残念ながら、理事会は日本のロータリークラブ復帰の問題に関して、現在いかなる措置も取ることはできない。

1947年3月18日に東京の工業クラブでR I 復帰連絡協議機関設置のための懇談会が開かれ、7月16日に第1回復帰協議会が開かれて、日本全国から14クラブ、32名の有志と、駐留軍のMoss氏が東京工業倶楽部に集まって協議をしました。

その間の情報を得たRI理事会は、1947年7月理事会議事録で次のような記録を残しています。

## 1947年7月理事会議事録

### 第66号日本のロータリー復帰の件

報告:理事会は日本の東京水曜クラブ会長(旧東京ロータリークラブ)から受け取った最近の書状の内容を勘案して、日本におけるロータリー復帰を検討したことを記録に残した。

決定:日本におけるロータリー復帰に関する最近の書状を再考した結果、理事会は日本のロータリークラブ復帰の問題に関して、現在いかなる措置も取ることはできないことに同意した。

1947年7月の記録によると、当時各曜会と名称を変えて例会を続けているクラブは18であり、その会員数は1,050となっています。ロータリーの名称こそ使えなかったものの、各曜会の例会には、駐留軍として在日していた連合国のロータリアンが再三訪れ、盛会であったと言われています。

1948年7月14日に、第2回復帰協議会が開催され、16クラブから40名が参加しています。その情報を得たRI理事会は事務総長補佐ジョージ・ミーンズを日本に派遣して、状況を精査する方針を固めました。

## 1948年7月理事会議事録

### 第68号日本と韓国のロータリー復帰の件

報告:理事会は日本のロータリーの復帰の問題に関するこれまでの情報を再検討した結果、日本のロータリー復帰に関する検討をする前に、日本における諸条件に関して直接的かつ客観的情報を入手する必要があるという感触を得た。理事会は、事務総長補佐ジョージ・ミーンズがまもなく、インドから戻る予定なので、事務総長補佐ミーンズが途中で日本を訪問して、インドからシカゴまで共に旅行をする他のロータリアンとも相談することによって、確かな情報を得ることができるという結論に達した。さらに、事務総長補佐ジョージ・ミーンズは同時に韓国に関する客観的情報を得られるものと思われる。従って、理事会は下記の決定を記録に残した。

決定:理事会は事務総長補佐ジョージ・ミーンズが、インドからシカゴへの帰路、日本と韓国の諸条件について徹底的な調査をするように手配することを事務総長に指示した。

中国やフィリピンのロータリアンや他の人々への対応が日本と韓国のロータリー復帰に影響を及ぼす可能性があるか否か、その真偽を見定めるために協議できるように手配することを事務総長に指示した。理事会は事務総長補佐ミーンズの報告があるまで、日本と韓国のロータリー復帰問題に関する処置を延期する。

上記決定は極秘、非公開とする。

1948年9月1日、インドに駐在していたRI中央アジアの副事務総長ジョージ・ミーンズが、日本を訪れ、東京水曜会の例会に出席して、小松復帰協議会会長から、日本の実情を聞くと共に、大阪金曜会やその他の七曜会を訪れて、日本のロータリークラブが名前こそ変えながらも、脱退以前と変わることなく例会を続けている状況をRIに報告します。

## 1949年1月理事会議事録

### 第163号日本のロータリー復帰の件

報告:1948年7月に開催された理事会は、事務総長補佐ジョージ・ミーンズがインドからシカゴの帰路、日本の状況を徹底的に調査し、中国やフィリピンのロータリアンや他の人々への対応が日本のロータリー復帰に影響を及ぼす可能性があるか否か、その真偽を見定めるために協議できるように手配することを事務総長に指示した。理事会は事務総長補佐ミーンズの報告があるまで、日本のロータリー復帰問題に関する処置を延期することを決定した。

1月の理事会において、理事会の指示による事務総長補佐ミーンズによる日本での調査、中国とフィリピンにおける協議に関する報告が口頭で行われた。

事務総長補佐ミーンズの報告に基づいて、日本のロータリー復帰に関連する様々な問題点について詳細な討論と熟慮の結果、理事会は以下の結論に達しそれを記録に残した。

決定:

- (a) 可及的速やかに日本のロータリー復帰を承認する。
- (b) 日本における仮クラブの結成を支援するために、理事会に代わって訪日するRIの事務局のスタッフを任命するよう会長と事務総長に指示する。
- (c) 仮クラブの組織に伴って必要な経費を賄うために、RIの剰余金から\$4,000または必要に応じる金額を支出することを認める。

理事会は1948年7月に要請された課題を見事に達成した事務総長補佐ジョージ・ミーンズに感謝表明する。

1949年3月9日に再び日本を訪れたミーンズは、RI理事会が同年6月の国際大会までに日本のロータリーが復帰することが決定したことを知らせます。

この吉報を受けた協議会は、このことを各クラブに知らせると共に、その準備にかかり、東京水曜会は3月16日に解散して、3月23日にチャーター・メンバー157名で創立総会を開催し、3月29日にはRIから以前の登録番号855のままで認証を受けました。これに続いて京都、大阪、名古屋、神戸、福岡、札幌の7クラブが順次RIに復帰し、第60地区として戦後の日本のロータリー運動が再開されることになります。

東京クラブのチャーター・ナイトは同年4月27日に開催され、マッカーサー元帥(後に東京クラブ名誉会員)や吉田茂首相からの祝辞が披露されました。

#### 1949年5月理事会議事録

##### 第182号第60地区の構成

- (a) 1949年7月1日より、日本におけるロータリークラブが地区として承認された。第60地区は日本全体のクラブおよび将来日本で承認されるすべてのクラブを含む。
- (b) 日本のロータリークラブに、地区ガバナーを指名するように要請した。地区ガバナーに指名された者はRIの経費負担によって、1949年の国際協議会に参加するものとする。
- (c) 特別な状態を勘案して、第60地区ガバナー・ノミネーが国際協議会に出席する費用は、1949年のニューヨーク国際大会の費用も含めて、RIが負担することに同意する。

RI 脱退中もロータリー例会そのままの非公式例会を続けていたことが大きな評価を受け、クラブ

歴、個人歴共に、この期間を含めることが認められることになりました。

R I 復帰に際して、戦前の日本のロータリーの強引な手法を牽制する意味から、離脱中の七曜会の解散、R I の定款・細則の厳守、R I への義務の完全履行、更に、各クラブはそれぞれR I に直結しているので、クラブが地区や国単位で固まって行動を起こさないことを誓約したという説がありますが、そのことに触れた理事会議事録は見当たりません。



## 職業奉仕採点表

1960年代のRIの資料から当時使用された職業奉仕採点表を発見し翻訳しました。現在にも通用する立派な採点表です。クラブで実施されてはいかがですか。

### 職業奉仕採点表

これは、あなたがどのように職業奉仕の義務を遂行しているかを、自分で測定する採点表です。ここに示す20の項目を検討して、あなたの成績を0点から5点までのいずれに該当するかを採点して下さい。

1. 私はロータリアンになったために、職業を通じて社会に奉仕する機会が増えた。
2. 私は公正な利潤を得るために公正な価格を設定する。
3. 私は社会が必要とする商品又はサービスのみを販売する。
4. 私は親切丁寧を事業の原則にしている。
5. 私はそれがたとえ商習慣であっても、一切の賄賂は認めない。
6. 私は同業者とも友好関係を保ち共通のサービス向上に協力する。
7. 私は若い人達が高い職業基準を理解して実行するよう指導する。
8. 私の広告の商品を偽りなく表示する。
9. 私は同業者組合において、倫理的取引規約の実践に積極的に協力する。
10. 私は従業員の提案を奨励する。
11. 私は従業員に公正な昇進の機会を与える。
12. 私は従業員の過失に対して、自分にも責任があるときは快くそれを認める。
13. 私は職業奉仕をより良く理解するため「奉仕こそわがつとめ」を読んだ。
14. 私はロータリーの奉仕の理想を職場に生かす手段として「四つのテスト」を活用する。
15. 私は自分の仕事の中でも可能な限り他人を援助する。
16. 私は請求書の支払を速かに行う。
17. 私は弁償、苦情、紛争に関して相手方の権利を尊重する。
18. 私は従業員に公正な賃金を支払う。
19. 私は支出の記載、保険の給付、課税の申告、その他の帳票を偽りなく作製する。
20. 私の行動によってロータリーは正しく評価されると思う。

## 米山奨学生の日記

ロータリーの友1985年2月号に掲載された、当時ロータリー米山記念奨学会理事をしておられた故多胡檜祐パストガバナーの投稿文です。非常に光栄に感じたことを覚えています。この記事を契機に1985年7月より地区の国際奉仕委員に任命されました。古いロータリーの友より私に関する記事を発見しましたので、少しだけの自慢話お許しください。

### 故多胡檜祐パストガバナーの投稿文

「米山奨学生として芦屋クラブにお世話になった以後の人生は、すっかり変わりました。2年間の奨学金は巨大な金額となり、私の物質面での需要を満して下さったことは、今でも感謝の気持ちで胸がいっぱいですが、一生忘れられないことは、カウンセラー田中先生が私に下さいました精神画での援助です。ロータリークラブは個人の功績を公表しないことになっているようですが、この米山奨学生報告の一角を使って、私の田中先生への感謝の気持ちを述べさせていただきます。

この2年間たいへん温かい心遣いをして下さると共に、妻や子供までの面倒をみて下さいまして、ありがとうございます。そして私はいつも思っています。もし米山奨学金がなく、また田中先生との出会いがなかったら、

もう2年前に留学をやめ国に帰ったにちがいない。ありがとう田中先生。

もうひとつ末永く私の心に思っているにちがいないことがあります。国で抗日戦争、反日感情を覚えて日本にやって来ましたが、抗日反日は遠のことであって、しかも言いすぎるような気がしました。歴史に感情を左右されると、日本そして日本人の良さがみつからないことになるでしょう。自分の目で確めたことは、日本、日本人が私たち中国、中国人の師に当たる国、人種と変わってきたとのこと。日本そして日本人が好きになりました。」(原文)

彼は神戸大学経営学部大学院博士課程で経営数学を専攻しております。田中先生は同君の奥さんを診療所(眼科)の看護婦見習として世話されていますが、また診療所の別棟を改造して、コンピュータのソフト会社を設立し、留学生にその場を提供して、アルバイトと親睦の場として開放され、「一人でも多くの留学生が日本を好きになって帰国するように願っています。」と言っておられます。田中先生の会社では、現在留学生20名(米山奨学生3名)がアルバイトしています。

米山奨学会のカウンセラーの制度は、他に例を見ない貴重な制度であり、奨学会のまいた種が大きく成長して、両国の理解と親善ひいては世界平和に貢献する大樹になるかどうかは、カウンセラーの双肩にかかっていると思います。

これを実証されている田中先生を満腔の敬意をこめてご紹介致しました。(田中毅氏、芦屋RC、第268地区、兵庫県)で現在9名奨学生をあくまでサポートしており、年2~3回指導教官、カウンセラーその他関係ロータリアンと懇談会を開いておりますが、彼らは一様に世話クラブを通じて、もすこし多くのロータリアンと家庭的な接触と指導を希望していますことを書きそえます。

## ロータリーの曙 日本編

日本にロータリー運動をもたらすきっかけを作ったのは福島喜三次FUKUSHIMA Kisajiです。

福島は一ツ橋大学を卒業後三井物産に入社して、1905年に渡米し、ニューヨーク、オクラホマ、ヒューストンを経て、1912年頃、ダラスの三井物産の現地法人サザン・プロダクツ社の支配人に就任しました。既に同社の社長ウィリアムスがダラス・クラブの会員になっていたため、福島は1915年ころ、アディショナル正会員として、ダラス・クラブに入会します。

その後、ウィリアムスが、第一次世界大戦の勃発によってドイツに引き上げたので、正会員として1920年まで、同クラブに在籍した最初の日本人ロータリアンです。なお、福島の帰国後に、「島」某が彼に代わって入会したという記録が残っています。

喜三次の読み方については、「きそじ」「きさじ」の両説があり、RIが保存している東京クラブの創立会員名簿には、英語でKISOJOと記載されていますが、有田クラブの資料では奥様お話しとして、「きさじ」が正しい記載されています。私が現地でお伺いしたところ、有田ではさ行の発音がなまるために、「きっちゃん」と呼ばれていた模様です。

福島の生家は佐賀県西松浦郡有田町本町にある馬渡クリニックの敷地内に、向笠元RI会長の直筆で「福島喜三次生誕の地」書かれた石柱が現存しています。

一方、米山梅吉は1868年東京に生まれ、少年時代を三島で過ごしました。苦学をして渡米し、帰国後30歳で井上馨の紹介で三井銀行に入り、常務取締役にまで出世します。

そして、1918年10月に目賀田種太郎男爵を団長とする政府派遣財政経済委員の一員として渡米した際、1919年の正月をダラスの福島宅で過ごすこととなります。この訪米に際して、米山は、「メキシコの境まで咲く枯野花」「テキサスの野の東や初日の出」等の句を詠んでいます。現地駐在員として案内役を務めた福島から、ロータリーに関する話を聞いて、関心を寄せると共に、アメリカの幾つかのクラブを視察した模様です。

1920年1月に帰国した福島は、アルバート・アダムス国際ロータリークラブ連合会会長から、年度内に日本にロータリークラブを設立してもらいたいという委任を受けて奔走しますが、年度末までに、創立に必要なチャーター・メンバーの数を集めることができず、期限切れとなってしまいました。

エスタス・スネデコル連合会新会長は、福島に再度委任状を送ると共に、パシフィック郵船横浜支店長ジョンストンをクラブ拡大の世話役に任命して協力を命じました。

1920年9月1日に設立準備会が開かれ、同年10月20日、チャーターメンバー24名が集まって、銀行クラブで創立総会が開催され、東京クラブが誕生しました。なお、RIから正式に認証されたのは1921年4月1日(登録番号852)です。

この流れからは当然、福島が初代会長に就任すべきだと考えられますが、自分の親会社の上司でもある米山に功を譲ったものと思われ、さらにこれが後々、社会的地位とロータリアンの平等性との混乱を

もたらす原因を作ることになります。

初代会長には米山梅吉、幹事には福島喜三次、理事に伊東米次郎、樺山愛輔、小野英次郎が就任し、合計28名で、東京ロータリークラブが創立されました。

創立当初の東京クラブは会員のほとんどが財界の大御所で占められており、選び抜かれた大企業の社長や重役といった顔ぶれが並んでいます。この最初の人選が前例となつて、戦前の日本のロータリーは功成り名を遂げた財界人が入るクラブという錯覚を生み出すと共に、クラブ会員が当然自ら果たすべき仕事を事務局員に任せるといった悪い習慣を日本全国に広げる原因を作りだしました。

東京クラブの例会は当初は月一回であり、かつ、たびたび流会し、出席率も悪く、また規約に対する関心も薄かったと言われていました。

東京クラブ創立における、ジョンストンの果たした役割は極めて大きく、1921年、彼の帰国に際して名誉会員に推薦してその功を讃えています。

福島は僅か二回例会に出席しただけで、1921年3月に大阪へ転勤になります。それを機会に、関西財界人の間にロータリーに対する関心が高まり、英米訪問実業団の一員として渡米した星野行則がシカゴへ赴き、直接、RI事務総長チェスレー・ペリーと会談して、大阪クラブ設立の意向を伝えました。

日本におけるロータリーの拡大に積極的だったチェスレーは、拡大に関する直接の指導を与えると共に、星野に大阪クラブ設立に関する全権を委嘱しました。帰国した星野は、福島と協力して拡大の作業を進め、1922年11月1日に、第1回創立準備会を大阪ホテルで開催します。その際集った人は10人でしたが、いろいろと奔走の結果、11月17日には、チャーターメンバー25名によって、大阪クラブの創立総会が行われます。初代会長は星野行則、副会長村田省蔵、幹事福島喜三次、会計八代則彦、理事平生鈞三郎、片岡安、木村清です。

RIから、1923年2月10日付けで加盟承認され、登録番号は1349です。

当初は、月2回の例会でしたが、1923年8月からは、毎週例会に改め、管理運営面の充実、出席規定の遵守、例会の時間励行、クラブ歌の制定、親睦会、定款翻訳などが積極的に実行されました。

1923年9月1日、午前11時58分、突如として起こった関東大震災によって、死者9万人、負傷者10万人、焼失68万戸、全壊1万1千戸という大災害となって、首都圏は壊滅的な被害を受けました。

RIの対応は迅速で、震災直後の9月4日にはRI会長ガイ・ガンディカーから、「RIおよび全ロータリークラブは深い同情の意を表す。如何なる事であろうと、遠慮なく申しつけられたし」の励ましの電報が届きます。

東京が壊滅的な状態であったため、大阪クラブが仲介の労をとり、福島幹事が「大阪ロータリークラブは、東京の三分の二と横浜のほとんど全域が崩壊した未曾有の災害に対して、日本国民に寄せられた暖かい同情に感謝すると共に、日本国全体がこの不幸に向かつて立ち上がるために勇気と行動と決意をみなぎらせており、救援活動も徐々に進み、大阪ロータリークラブ会員も救援活動に然るべく役割を果

たしていることを、国際ロータリーを通じて、アメリカ及び他の国にお伝え願うことを希望します」という電報をRI本部に打電しています。

9月10日にはサンフランシスコ・クラブより1,000ドル、翌11日にはニューヨーク・クラブから1,000ドルの義捐金が到着し、16日にはRI本部より大阪クラブに「電報を拝受しました。RIが救援資金として25,000ドル寄贈することを東京のロータリアンにお伝えください。東京クラブがこの救援資金を受け取って、救援事業に使用するために、現地の銀行口座に振り込むのか、東京に送金するのか、それともどこかに送金するのか、もし東京クラブが受取ることが不可能なら、大阪クラブが代わりに受取ってもらえるのか、ご連絡ください」という書状が届きました。

この電報を受取った大阪クラブ幹事福島は、東京クラブの米山に次のような書状を出しています。「大震災に御無事の由、誠に嬉ばしく存じます。ニューヨーク及びサンフランシスコのロータリークラブより、1000ドル宛送金して来たこと及びその処分方法に就いては、星野氏よりお聞き及びのことと存じます。今日は又、シカゴの本部より次の通り2万5千ドル寄付の申込がありました。その電文をお知らせします。電文の意味は明瞭と存じます。私共は米国ロータリアン一同の深厚な同情に感極まって言葉が出ないのであります。どうか、会員其他に諮られ、なるべく速やかに、御返事を願います。此機会が縁となり御地のロータリークラブは勿論、日本に於けるすべてのロータリー・ムーブメントが大発展をする様希望して止みません。」

相談の結果、義捐金は東京クラブが受け取ることになり、その旨、シカゴ本部に連絡されました。その後世界中のロータリークラブから続々と義捐金が送られ、その合計は最終的に74,000ドルに達しました。クラブの内訳は、アメリカ375、イギリス60、カナダ40、キューバ6、メキシコ4、オーストラリア3、ニュージーランド、オランダ、フランス、パナマ各2、ペルー、南アフリカ、フィリピン、ブラジル、ノルウェー、デンマーク各1、合計16ヶ国、503クラブに及びました。

東京クラブは特別委員会を設けて、慎重にその用途を検討し、木下産院の建設、小学校の備品整備、ロータリー・ホーム建設、殉職警察官の遺族に対する援助活動を行っています。なお、義捐金の総額については、資料によって幾つかの異なった集計がでていますが、RIに提出された、1924年5月26日の最終報告書は次の通りです。なお当時の為替相場は¥100=US\$49です。

収入RIより74,216円30銭

他のRC、その他14,944円82銭

合計89,161円12銭

支出木下産院10,000円00銭

小学校26,731円60銭

孤児院建設37,000円00銭

殉職警察官遺族15,429円52銭

合計89,161円12銭

孤児院は東京市の希望を取り入れて、東京クラブ会員清水釘吉の設計施工による180坪の鉄筋コンクリート二階建て、一階には事務室、保母室、裁縫室、調理室、浴室、二階には居室6室、集会室を設

け、さらにミシン15台を備えた、当時としては最新の施設で、Rotary Homeと命名されました。1924年10月10日に完成し、当日は、大勢の孤児や東京クラブ会員家族が参加して、開館式が催されました。この建物は10年後に一部修復されましたが、RI脱退後、東京市に管理が移されて、Rotary Homeの名称も消え、その後戦災によって焼失しました。

なお、この震災によって全ての事務用品、書類、認証状、ロータリー旗を失った東京クラブに対して、シカゴ本部より一切の備品が送られてきました。

杉村広太郎の協力によって会報発行の準備が進んでいた矢先に大震災が起こって、一時中断していましたが、1925年5月から、北島亘によって会報が発行されました。この会報はTokyo Rotary Club Bulletinと名づけられた英文の会報で、外国のロータリアンから高い評価を受けています。全6巻から成り、東京クラブの創立から1940年9月11日の解散までの記録が残されています。

当初日本は、RIによる直轄クラブとして無地区Non-District Territoryでガバナーもなく、クラブ拡大に不便な状態だったので、RIは米山梅吉をSpecial Commissionerに任命して拡大に当たらせました。1924年には大阪クラブをスポンサーとして神戸クラブが、東京クラブをスポンサーとして名古屋クラブが創立され、更に、1925年には京都、1927年には横浜と順次クラブが増えていきました。次いで、井坂孝がSpecial Commissionerに任命されて、ソウル・クラブが設立され、さらに、大連、奉天クラブが設立されました。

全国レベルの最初の会合は、1926年に大阪で開かれた都市連合会Inter-City-Meetingです。当初は、懇親会として準備を進めていましたが、折角集めるのだから協議事項も入れようということになって、①今後、毎年開催するや否や、②日本ロータリー連盟設置について、③日本各地にロータリークラブを拡大すべきか、④定款・細則を邦訳する必要があるか、⑤ロータリークラブの存在や活動を広報する必要があるか、について、議論しました。午前中の会議に続いて午後は大阪見物、夜は大阪クラブの4階で懇親会を行い、家族を合わせて138名が参加しました。

第2回の都市連合会は1927年東京で、第3回は1928年名古屋で、第4回は1929年に京都で開催される予定でしたが、この年に70区が設定されたため、これが第1回地区大会に変更されました。

1928年10月1日から4日間、東京において、第2回太平洋会議が開催され、外国からはサットンRI会長夫妻を始めとして、109名のロータリアン夫妻、日本からは233名のロータリアンと226名のロータリアン家族が参加しました。アメリカ、ハワイには天洋丸が就航して横浜まで、オーストラリア、ニュージーランドには安芸丸が就航して、神戸までロータリアンを運びました。

なお、第3回の太平洋会議は、1930年にシドニーで開かれて日本からは11名が参加、第4回は1932年にホノルルで開かれて2名参加、1935年のマニラ大会には16名が参加しています。

日本に地区を設ける希望が高まったため、RIに地区設置を申請した結果、1928年7月、朝鮮、満州を合わせて第70地区として、RIより正式承認を受けることとなります。正式認定とはいうものの、当時7クラブしかなかった地域を地区として承認することにはかなりの無理があり、日本の強引な提案にアジア各地のクラブからの反発もあり、RIもしぶしぶ了解したというのが真相のようです。

1928年7月に第70区が設置され、1929年4月27日に京都クラブがホストして華頂会館および京都ホテルを会場として、第1回地区大会が開催されました。

初めての地区大会なので、全く様子が分からず、ホストの京都クラブはその準備が大変だった模様です。夜来の雨も上がって、午前10時に京都華頂会館で開会。京都クラブ副会長シャイベリー夫人のピアノ伴奏による「Rotary」の合唱に続いて、米山ガバナー、京都市長の挨拶、各地ロータリークラブ代表の現状報告の後、協議に移りました。次期ガバナーに米山梅吉が再選され、次の大会開催地が神戸に決定しました。

東京クラブから提案されていたHe profits most who serves bestを撤回する案は保留となり、その他7項目が決議されました。

午前中の会議終了後、知恩院で精進料理の昼食をとり、午後は島津製作所、歌舞練場を訪れました。夜は京都ホテルで晩餐会が行われました。その席上、米山夫人に薔薇の花を入れた銀の花瓶が贈られるはずが、薔薇の代わりに藁一束が届いて大騒ぎになったというエピソードが残っています。翌日は、エクスカッションとして京都御所と日活撮影所、嵐山を訪れています。

第2回地区大会は翌1930年5月に、RI会長代理としてフランク・マルホランド氏を迎えて、神戸で開催され、10クラブ、会員家族合わせて437名が出席しました。この席上で、米山梅吉がガバナーに三選されました。奉天クラブから、日本語のロータリー・ソングを作ること、奨学金制度を作ること、ガバナー月信を発行することなどが提案されました。大会2日目には吉野丸による瀬戸内海巡航がおこなわれました。

奉天クラブの提案を受けて、1930年5月より、ガバナー月信が発行されました。井坂ガバナーからガバナー月信が書かれたという説がありますが、これは間違いで、米山ガバナー3期目からガバナー月信がだされています。1930年5月から1931年3月までは「コンフェレンスまで」、1931年4月から年6月までには「コンフェレンスのあと」という副題がつけられています。なお、表紙にはガバナーに三たび選ばれたことが、米山梅吉の自筆で書かれています。

1931年、横浜で開催された第3回地区大会で井坂孝がガバナーに選ばれ、1932年の大阪大会で再選されます。井坂ガバナーの年度からは定期的にガバナー月信が発行されるようになりましたが、井坂ガバナー月信の第1号から第3号までは現存していません。

1933年の東京大会で村田省蔵がガバナーに選ばれ、1934年名古屋大会で再選されますが、それ以降は毎年交代するようになりました。

地区大会はその後1935年京都、1936年神戸、1937年札幌、1938年ソウル、1939年別府とRI離脱まで開催されています。

その後、1931年台北、1932年札幌、広島、1933年福岡、小樽とクラブ拡大も順調に進みました。

1935年、ポール・ハリス夫妻が、RI会長ヒル夫妻と共に日本を訪れました。2月下旬にマニラで開かれる第5回太平洋大会に参加する途中の訪日で、当初は2月6日に横浜に到着する予定でした。1月末に、プレジデント・クーリッジ号に乗船し、日本に向かって航行中である旨、電報による連絡がありましたが、悪天候のため順延して、2月9日午前5時に横浜に到着しました。

横浜市長、鹿島東京RC会長他多数の出迎えを受け、横浜のニューグランド・ホテルで小憩の後、10時30分、東京駅に到着しました。到着予定が大幅に狂ったため、当初予定されていたスピーチ等の全ての公式行事は中止となり、二重橋、明治神宮その他の市内観光の後、午後2時、帝国ホテルに到着し、小憩の後、ホテル前庭に月桂樹を植樹しました。

この月桂樹は枯れましたが、その根からでた新芽が、重田PDG宅、佐古PGD宅などに植えられ、さらに最近岐阜クラブの75周年を記念して株分けされました。

その後、芝公園内の紅葉館で行われた純日本式の昼食会に参加しました。紅葉館での料理は次のように純日本式でした。

御作り身鮪、平目、胡瓜、山葵

御吸い物すっぽん、葱、生姜

御蓋物牛肉煮込、玉葱、隠元豆

御焼肴鯛、生姜

御間い肴あい鴨、鰻、百合根

御鉢肴車海老、青唐辛子

御留椀若鶏、人参、筍、青豌豆

御飯米飯、新香

御水菓子苺

昼食会の後、三越百貨店、御木本真珠を訪問し、夕刻、帝国ホテルに戻って衣装換えの後、午後6時から、東京會館4階で行われた、東京RC、横浜RC主催の歓迎晩餐会に出席しました。

当時の記録によると、この歓迎晩餐会の模様を次のように紹介しています。

食堂は桜咲く隅田川の春景色にしつらい、洋風の窓や戸は日本の提灯で隠し、三囲神社を模した建物まであり、別室では日本古流の茶室で抹茶の接待が行われ、一行は此の接待に充分満足気であった。晩餐会はロータリー・ソング(Rotary my Rotary)で始まり、食事中日本の三曲合奏および声楽家の独唱があり、一方舞台では見事な桜踊りがあった。ポール・ハリスは立って、君が代のオーケストラの演奏の中に天皇陛下のためにトーストを捧げた。

又日本側からは東京RCの名誉会員前首相齊藤実子爵が米国大統領の健康を祝し、その間米国国歌が演奏された。

デザート・コースに入って東京RC会長鹿島精一が、又横浜RCの副会長ソマーラーがそれぞれ会を代表して挨拶し、ついで米山梅吉が歓迎の挨拶を述べた。これに続いて名誉会員徳川公も感想と挨拶を述べ、次にヒルRI会長の謝辞があり、最後にポール・ハリスが感激にみちた挨拶をした。

歓迎晩餐会終了後、午後9時30分、東京駅発の夜行列車に乗車し、翌朝7時50分、京都に到着。京都ホテルで朝食の後、車で京阪国道を通り、新大阪ホテルへ向かい、午後1時より開会された、京阪神3RC



連合の歓迎会に参加しました。

この歓迎会には、京阪神の他、岡山、門司、名古屋、ハルピン等のロータリアン130名が参加しました。ロータリー・ソングに始まり、来賓紹介、村田ガバナーの歓迎の辞の後、ヒルRI会長、ポール・ハリスの答辞がありました。席上、ヒル会長には七宝香炉、ポールにはブロンズの胸像が贈られました。晩、車で神戸に向かい、プレジデント・クーリッジ号でマニラに向けて出航しました。なお、この便には、太平洋大会に参加する多数の日本人ロータリアンが乗船しました。

1922年にヨーロッパで最大のロータリークラブ数を擁する、イギリスとアイルランドがRIBI Rotary International British & Ireland を結成したことから、世界各地で、RIの管理から離れて、地域分権を求める気運が高まってきました。日本も、これに倣って、日本、満州、朝鮮でRIJM Rotary International Japan & Manchuriaを結成しようとする「ロータリーの日本化」が真剣に論議されるようになりました。当時、韓国と台湾は日本の統治下にありましたから、問題はないとしても、満州が70地区に含まれていたことは、RIが満州を日本と一体のものとして認識していたものと考えられます。

1931年の満州事変を契機として日米間の雲行きは怪しくなり、1933年の国際連盟脱退によって、それは決定的なものになります。その経過の中で、ロータリーの本部がアメリカにあるという理由で、陰に陽に、軍部や官憲からの圧力を受けることとなります。ロータリーはアメリカのスパイであるとか、フリーメーソンであるといった批判に対して、ロータリーのモットーService above self は滅私奉公であると反論したという記録が残っています。そういった批判を避けるために、RIBIのようにRIの中央集権の組織から離れて、国家単位で管理してはという意見がロータリアンの間で起こったため、1935年に京都で開催された地区大会でRI会長代理として出席したサットン元RI会長にその旨を申し入れましたが、色よい返事は貰えませんでした。

1935年京都で開催された地区大会では、新作の日本語のロータリー・ソングとして、「奉仕の理想」と「われらの生業」が発表されました。

1936年に神戸で行われた地区大会では、ロータリーの日本化に関連する提案が噴出して、「紀元2600年に日本で国際大会を開催する」「地区の特殊事情に応じ、ロータリー精神の普及徹底を期するため、RIの機構を地区単位に改めるよう希望する」という決議が採択されました。

「アメリカのロータリーにおける東洋人差別是正」という案件が提案されましたが、たまたま神戸の直木太郎が提出した「大連クラブのロータリー宣言を70地区のロータリー宣言として採択する」という動議を巡って大混乱になりました。米山梅吉は、国際ロータリーにおいて決定した「ロータリーの綱領」は一言一句の変更は許されないと述べたのに対して、京都クラブの会長田辺隆二は、それは英文のことであって、その精神を日本文で表すものがあるとしてもよいと反論し、村田省蔵パスト・ガバナーは、この大連宣言を推奨したのは自分であり、これは立派なものであるから、これを英訳して、「ロータリーの綱領」を改正するように、RI本部に提案したらよいと述べました。

結局、大阪の里見純吉の提案によって、この宣言は、ロータリーの綱領の変更ではなく、内容を補足するものとして、大会宣言することで収拾されました。

この[大連宣言]は、大連クラブの古沢丈作が、1928年に発表した、「ロータリーの綱領」と「ロータリ

一倫理訓] の真髓を、格調高い日本語で適格に表現したドキュメントとして、高い評価を受けています。

### 大連宣言

- ・ 須らく事業の人たるに先立ちて道義の人たるべし。蓋し事業の経営に全力を傾倒するは因って世を益せんがためなり。ゆえに吾人は道義を無視していわゆる事業の成功を獲んとする者に与せず。
- ・ 成否を日々に先立ち退いて義務を尽さむことを思い進んで奉仕を完うせんことを念う。自らを利するに先立ちて他を益せむことを願う。最も能く奉仕する者、最も多く満たさるべきことを吾人は疑わず。
- ・ あるいは特殊な関係をもって機会を壟断しあるいは世人の潔しとせざるに乘じ巨利を博す、これ吾人の最も忌むところなり、吾人の精神に反してその信条を紊るは利のため義を失うよりはなほだしきは無し。
- ・ 義をもって集まり、信をもって結び、切磋し琢磨し、相扶け相益す。これ吾人団結の本旨なり。しかれども党をもって厚くすることなく他をもって拒むことなく私をもって党する者にあらざるなり。
- ・ 徒爾なる角逐と鬭争とは世に行なわるべからず、協力をもって博愛平等の理想を実現せざるべからず、しかり吾が同志はこの大義を世界に敷かむがために活躍す吾がロータリーの崇高なる使命ここに在り、その存在の意義またここに存す。

この大連宣言を起草した古沢丈作は、終戦後東京クラブに入って1952年に会長を務めた際、米山梅吉の遺徳を忍んで米山奨学金制度を作りました。

アメリカに本部があるという理由から、ロータリー運動に対する官憲の介入は厳しさを増して、例会が監視下におかれると共に、米山梅吉や地区幹事の芝染太郎は再三特高の取り調べを受けたと言われています。この嫌疑を晴らすために、RIの中央集権化から離れて、日本独自の地方的自治分権を図ろうという運動が進められました。

1938年比叡山で開かれた地区協議会において、東京から第70区がRIの中央集権組織から離れて自治権を持つという提案を来るべき国際大会に提出する準備を整えるために、研究委員会を組織する、という提案がだされました。この提案には米山梅吉も賛成して、自ら提案主旨の説明をし、異議なく採択されました。これに基づいて、クリーブランド国際大会に提出するために、宮脇富パスト・ガバナーを中心とする研究委員会によって作られたのが、俗に「宮脇案」と呼ばれる、日満ロータリー連合会の原案です。

70地区の幹事、芝染太郎が特派代表として、同年開催されたクリーブランド大会に出席して、RIとの交渉に当たることになりました。出発に先立って、米山梅吉はRI会長に宛てた次のような親書を、芝に託しています。

まず前会長ウイル・メーニアの「歴史と風俗と習慣とは各国悉く異なれり。故にこれを統一的に取り

扱わんとするのは誤りにして、思想上の傾向に適合せしむべく各々自由ならしむべし。」の言を引用し、「東西欧亜では甚だ風俗習慣が違っているが、ロータリーの目的は明白であるから、これを忠実に実現出来れば、他の細項は各区の自治に任せばよいので、ロータリーの開祖ポール・ハリスさえ、ロータリーの到達すべき運命に適応せんとせば、ロータリーは常に徐々に進化し、又或る場合には急進的改革をも必要とすると言っている。大会参列の諸君はこのRI機構の進化変遷に必要な注目し、第70区が提案する機構改正に虚心坦懐検討されんことを希望する。余は急進的改革を希望するのではない。ただその進化を促進し、将来の宿望に適応させる必要を認めるものである。隣邦第79区ガバナー、フォン・セク博士は最近死去したが、その数日前余の所論に共鳴し、一緒に支那のロータリー拡張と永久性のために共同してつくしたいと述べた。」と結んでいます。

この第70地区からの「RIJM設立」についての提案は議案39-9として6月19日の立法委員会に提出されました。芝は渡米後、この提案の取り扱いについて、チェスレー・ペリー事務総長やRI理事と何回も非公式会談を重ねましたが、賛否両論がでて結論は得られませんでした。特にアルゼンチン、ペルー、ブラジルはこの提案を機会に、南米における中間管理組織を作ることを考えていたため、RIはこの提案は日満だけの問題ではなく、RIの根本を揺るがす問題だと考えました。もしもこの提案が審議されれば、大会が紛糾することは必至であるとみたRI理事会は、この提案を責任を持って理事会が対処することを確約して、芝に撤回を要請したので、芝はそれを受け入れました。

日本からの提案を受けて、RI理事会が認めた規約は次の通りです。

- ・ 3地区の統括機関として日満連合会を設け、会長1名、ガバナー3名、パスト・ガバナー3名、前会長1名、合計8名の委員をおく。
- ・ 会長はRIの承認を要せず、委員の任期は1年とする。
- ・ 会長の選挙は3地区連合大会でおこなう。
- ・ ガバナーの選挙は地区大会で行い、RIに通告し、従来と同じく国際大会で選任する。
- ・ ガバナーの任務は従来と同じとする。
- ・ RIへ送金する4ドル50セントは、半額を連合会に残して、その費用に充てる。
- ・ 1939年7月から実施する。

以上のような経緯をたどって、日満地区46クラブが自治地域制度の適用を受けることになり、1939年7月から、日本の第70区が第70区、第71区、第72区に分割されました。

第70地区・・・名古屋以東の20クラブ

第71地区・・・西日本、台湾の19クラブ

第72地区・・・朝鮮、満州の8クラブ

第1回の日満ロータリー連合大会は、1940年5月、横浜で開催され、会長には米山梅吉が選ばれましたが、これが戦前の日本ロータリーの最後の大会となりました。この大会では、ロータリー綱領の邦訳を改めること、国名をニッポンに統一すること。皇軍への感謝、傷病兵慰問などが決議されました。

ここで、特派代表として、クリーブランド大会に出席して、RIとの交渉に当たった芝染太郎について触れてみたいと思います。

芝は1870年愛媛県宇和島近郊で生まれ、1894年に単身ハワイに移住しました。ジャーナリストを志してハワイ新報に入社し、1905年には同社を買収して社主になりました。

1916年帰国しジャパンタイムスに入り、1921年には買収して同社の社主となりました。

関東大震災直後に東京ロータリークラブに入会し、米山梅吉との親交も厚く、1937年に第70地区の幹事に就任し、クリーブランド大会に特派代表として出席しました。

彼の著作「\$の国アメリカ」には、日満ロータリー連合会の交渉にあたって、友人への土産である日本刀を携えてRI本部を訪れて剣舞を披露して、もしもこの提案が通らなければ切腹も辞さないと言ったと記載されています。その気迫が功を奏してか、RIが日満ロータリー連合会の存在と自治地域の適用をしつと黙認したというのが真相のようです。

芝は1938年発足した日満ロータリー連合会の幹事を務め、RI脱退とともに茨城県鹿島に移り住み、地元で「晴耕会」というロータリークラブと同じような組織を作って悠々自適の生活を送り、1949年に79歳で逝去しました。

連合会設立の努力にもかかわらず、官憲の圧力は厳しく、8月8日に静岡RCが、引き続いて、8月12日に大阪RC、8月19日には岡山RCが解散します。

その後、8月21日には京都RC、その後も広島、高知、金沢と解散が続いたため、9月4日、日満ロータリー連合会は総会を開催して、RIから脱退して、独自の日満連合会を組織することを決定し、その創立委員25名を指名しました。

しかし時は既に遅く、東京RCが解散を決定したのは、9月11日のことであり、米山梅吉は、重い足を引きずるようにしながら壇上に立って、最後の挨拶をしました。

拝啓時下各位益御清祥慶賀此事に奉存候

陳者各位と共に終始其発展に努力致し來り候ロータリー運動も一旦廃止の己むを得ざる事態に立到り候こと誠に今昔の感に堪へざる次第に候

多年間断なき無数の會合に於て舊ロータリー俱樂部が重きを會員各自の職能に措き往來親睦に手を握りて互に相勵まし陰に陽に奉仕の一念を以て事に従へる為過去二十年ロータリーが清新にして而かも活潑なる社交機關として世の信認を博せること偶然にあらずと存候

其発展に於ても日満四十八市を網羅し軀ては百俱樂部の陣容を整へ恰も東亜勃興の新機運に参して大いに國際正義の達成に資するを得んことを庶幾し昨年既にクリーブランドに於けるロータリー世界大會に向ひ吾が主張を聲明しロータリーの組織を改め國家單位の機構に礎石を置かんとし益多望なる前途を豫

期せる際不幸なる影響を受け意外の蹉跌を見るに至れること此上なき恨事と申ぐべく御同様残念に堪へざることに候

何れにもせよ國際ロータリー離脱のことは豫て其組織關係に更改を企圖致居候ことにも有之旁日滿ロータリー俱樂部解散の決行は乍遺憾誠に己むを得ざりし次第に候

抑も奉仕の理想に基き各自の職能により國家社會に貢献し公益の増進にカメ外は以て國際の諒解を正しくせんが為めに實業及び専門職業人たるロータリアンが努力多年に亘り會員間に醸成したる特殊の熱情は一度ロータリアンたりしものの永く保持して用を為さんとする處にして是即ちロータリーの後身として新社交俱樂部を創設し従來の意義ある交友關係を繼續致し度き希望に燃ゆる所以に候

先般臨機に委員を擧げ協議の結果假定致候規約案は曩に御手許へ差上置候通りに候右御準用の上今や適宜御発會被成候て然るべき時節と相成候やう存候

大阪に於ては既に規約を設け金曜會を創立各地にも夫々類似の御催あり且又一二直ちに俱樂部の組織に出てんとする處も有之ことに承知致候

斯くて所在に新組織成立致候上臆て一定の名稱及び相互の連繫等に付き工夫を要する時機不遠到來可致存候へ共従來の日滿ロータリー聯合會は既に全く解體、月刊機關誌も廃止のことに致し目下残務の整理に従事罷在候自然の成行は御承知被下候通りに候

凡そ忠良なる日本國民として臣道實踐の方途は多々可有之支那事變以來舊ロータリーの對外活動に於ても之を見たることに候へ共今や純日本主義に創設さるべき吾等の新組織は更に大に其主義精神を發揚して國家社會に貢献し殊に現下の非常時局に即応する為め各自の職場に於て大政の翼賛に寄興致すべきこと必然と存上候以上貴意を得るに當りロータリー過去の歴史を回顧し感慨無量文辭悉きず偏に各位の御自重を所り候

昭和十五年十一月十六日 敬具

米 山 梅 吉

9月11日、日滿連合会は最初の会合を開いて、既に大阪で作られていた定款を基に協議して新定款を起草し、9月25日の会合でこれを採択し、この会の名称を「七曜俱樂部連合会」としましたが、この会がどのように運営されたかの資料は残っていません。

各クラブのRI脱退状況および再組織の状況は次の通りです。

クラブ名	脱退年月日	再組織名
静岡	15・8・8	木曜会
大阪	15・8・12	金曜会
岡山	1940・8・19	水曜会
京都	1940・8・21	水曜会
広島	1940・8	火曜会
高知	1940・8	火曜会
金沢	1940・9・1	水曜会

今治	1940・9・5	木曜会
神戸	1940・9・15	木曜会
盛岡	1940・9	木曜会
名古屋	1940・9	同心会 → 火曜会
函館	1940・9・4	函館職能協議会
帯広	1940・9・5	木曜会
小樽	1940・9・7	火曜会
新潟	1940・9・7	火曜会
東京	1940・9・11	水曜会
旭川	1940・9・23	金曜会
四日市	1940・9	木曜会
郡山	1940・9	金曜会
仙台	1940・9	火曜会
横浜	1940・9	同人会
札幌	1940・11・20	札幌職能会
西宮	1940・12・16	火曜会
福岡	1941・7・1	清和会
釧路	1941・10・10	釧路職域懇談会

## 自炊のすすめ

「自炊」がにわかにな注目をあびている。といっても自分で食事をつくるのではない。本を裁断してスキャナーでデジタル化し、電子書籍を手作りすることだ。

本のとじ目を切り落として1ページずつばらばらにしてパソコンにつないだスキャナーで読み知り、電子データで保存して読む。「自炊」とはネット上の俗語で「自分でデータを吸い込む」イメージに「炊」の字をあてたからなど諸説がある。持ち歩きしやすいアイパッドの登場が自炊化を後押しする。・・・毎日新聞8月20日夕刊

私が自炊によってデータの電子化を始めたのは、ガバナーを終えた1997年からですので、日本における先駆者と言えるのかもしれませんが。

ロータリー文庫からオーレン・アーノルド著のゴールデン・ストランドを借りて1ページずつスキャンして、それを1年がかりで翻訳したのが最初の自炊でした。

その後、再三RI本部の資料室やロータリー文庫を訪れて、ロータリーの古典を探し出してはそれをコピーして、デジタル化すると共に翻訳を続けました。当時のスキャナーはいわゆるフラット・タイプで1ページずつ表裏を返してスキャンしなければならず、当然のことながら本の背表紙をカットして1ページずつばらすという発想はありませんでしたから、単純作業の手首の痛みと無為に過ぎる時間との戦いでした。

私のホームページ「ロータリーの源流」を通じてデジタル化した文献の提供をされていて初めて気付いたことは、OCRを使ったテキスト付きのPDFにすることで、コピー・アンド・ペーストしたり、検索機能を使ったり、非常に便利に活用することができることでした。例えばシェルドンの文献を開いて、そこに「He profits」という検索をかけると、その文字が含まれた箇所が即時に出てくるという便利さです。別の例で示せば、シェルドンの文献に「Service above self」のキーワードを入れて検索しても、一か所もヒットしません。すなわちシェルドンは「Service above self」というフレーズを使っていないことが推測できるわけです。そこで、専用ソフトを使って、今まで収録していたすべてのPDFをすべてテキスト付きの文に作り直す作業を開始しました。

2007年の夏、老後の利便性を考えて、40年住み続けた芦屋を離れて、JR尼崎駅前の新都心に建設中のマンションに転居することにしました。駅まで3分、隣に巨大なショッピング・センターや映画館やレストラン街ができるということですし、マンション暮らしの方がセキュリティーを含めて何かと便利だと考えた上での決断でした。私は最上階からの展望を楽しみにしていましたが、家内は芦屋ブランドから尼崎に変わることにかなり抵抗があるようでした。

友人のロータリアンに芦屋の家の売却を頼んだところ、思わぬ高値でそれもたった3日で話がまとまってしまいました。尼崎のマンションが完成するのが翌年の夏なのでそれまで1年もあるので、それまではマンションの近所に仮住まいすることにして、とりあえず引き渡しは半年後に引き伸ばしてもらいました。

そこで大きな問題に直面しました。私が持っているロータリー関係の文献を含めた膨大な蔵書をどうするのかという問題です。ロータリーの文献だけでも、180 X 180の本箱3つ。その他の蔵書は3階の書庫にぎっしり。これをたった110平米のマンションに移すことは物理的に絶対不可能ですし、本を処理する決断もつかず、結局、必要な本はすべて「自炊」することを決断しました。

ネット検索で、連続してスキャンできるドキュメント・スキャナーの存在を知り、早速アマゾン経由で購入しました。初めはカッターを使って手作業で本をばらしていましたが、これもネット検索で**Made in China**の大型裁断機を7万円で購入し、これで背表紙を一気に裁断することによって、効率よく作業を進めることができるようになりました。ただスキャナーの紙づまりが再々起こって、ローラーの掃除や交換が頻繁に必要であり、まだまだ開発途上の製品であることを実感しました。もっとも最近では「自炊」ブームということで各社から良いスキャナーが沢山で回っているようですが、2007年夏当時は1社1製品のみだったと思います。

というような苦労を重ねて、2008年正月に尼崎に転居するまでの半年をかけて、我が家の文献はすべてテキスト付きのPDF約100ギガとなりハードディスクに収まっています。松本清張、世界文学全集から阪神タイガースまで何でも詰め込んでいますが、果たして読み返す暇が見つかるかどうか、はなはだ疑問です。

さてその後ロータリーの文献収集も順調に進み、その「自炊」もかなり進んだので、これらの資料をさらに充実して後世に伝えるために、私一人で抱え込むのではなく、有志のロータリアンに力添えを頂く方がよいと考えて、2010年7月1日より「源流の会」を創立しました。おかげさまで現在20名のパストガバナーを含む250名の会員でこの会を運営しています。

「源流の会」アーカイブスの内容も徐々に充実し、現在約6500冊の蔵書になり、その中には数多くの内外の歴史的文献資料、ロータリアンの著作、地区やクラブの出版物、RI本部から提供(有償)を受けた100年分のThe Rotarianと国際大会議事録も含まれています。ただし、著作権の問題がありますので一般公開とはせず、会員のみ利用にしていますので、<http://genryu.org>にアクセスの上入会手続きを済ませてIDとパスワードを取得してから閲覧してください。

なお皆さまのご協力で、さらに内容を充実させていきたいと考えていますので、お手持ちの文献の提供を宜しくお願い申し上げます。



## 近況報告

9月18日の米山記念館における講演(三島) から始まり、9月25日の源流セミナー(名古屋)、10月2日の職業奉仕セミナー(京都)、10月16日の2510地区大会(札幌)の地区指導者研修セミナー、10月29日の2660地区大会(大阪)のRI会長代理、2790地区大会(銚子)のRI会長代理を終え、今秋の長いイベントをやっと済ませることができました。

各地で皆さま方の暖かい友情に触れ、ロータリーとはすばらしい出逢いの場と心から感謝申し上げます。

米山記念館の講演と源流セミナーでは、日本ロータリーの歴史についてお話をしました。今年の5月に源流セミナーで有田に行った際、日本で最初のロータリアンである福島喜三次の生家を訪れたり、1920年代のThe Rotarian誌に収録されていた写真や、東京ロータリークラブの歴代の資料を参考にしてプレゼンテーションを作らせていただきました。

その他の講演は、利潤の追求を第一義に考えた新資本主義の風潮を、如何にしてアーサー・フレデリック・シェルドンのロータリーの職業奉仕理念に回帰するのかを考えると共に、近未来の地球におけるロータリアンの役割についてお話をさせていただきました。特記すべきこととして、**He profits most who serves best**のフレーズが、1902年に発行されたシェルドン・ビジネス・スクールの教科書に記載されており、シェルドンの職業奉仕理念はこの30年後にあたる1935年に導入された修正資本主義に類似した考え方であるという事実をお知らせしました。

どの会合も天候に恵まれ、札幌では今年最後の暖かい週末、銚子では4日の滞在中すべてが晴天で、晴れ男の面目躍如たるものがありました。

札幌では佐々木ガバナー、伊藤元RI理事、塚原・矢橋パストガバナーを始め多くのロータリアンより心温まるご接待を受け、大会初日の地区指導者研修セミナーで「世界恐慌と職業奉仕」というタイトルで60分のお話をさせていただきました。北RI会長代理とも親しくお話をする機会を頂きました。

大阪でRI会長代理はお隣の地区でもあり、多くの知り合いもいることに加えて、松本ガバナーご夫妻、エイドの神崎パストガバナーご夫妻を始め大会関係者の皆様に大変お世話になりました。ホストの八尾クラブの手作りの大会で、出席者450名という盛大なRI会長代理歓迎晩餐会を開いていただきました。2日目の本会議で「職業奉仕を探る」というテーマで60分のお話をさせていただきました。

銚子では織田ガバナーご夫妻や杉山幹事の暖かいご接待をいただき、天皇陛下がお泊りになった部屋に泊めていただいたり、成田山の参拝に連れて行っていただきました。1日目に「ロータリーの危機」というタイトルで90分のお話をさせていただき、2日目は元RI会長ビチャイ・ラタクルさんが「奉仕の理想」というタイトルで90分のスピーチをされました。

何よりもうれしかったのはビチャイ・ラタクルさんとご一緒に3日間ロータリー談議に明け暮れたことです。本当によくロータリーの職業奉仕を理解しておられ、織田ガバナー共々ロータリー感を共有できたことは大きな喜びでした。

どの会合も天候に恵まれ、札幌では今年最後の暖かい週末、銚子では4日の滞在中すべてが晴天で、

晴れ男の面目躍如たるものがありました

## He Profits Most Who Serves Best

2010年手続要覧の英語版が発行されました。内容を精査すると、過日シカゴで開催された2010年の規定審議会において、ロータリーの第二モットーが **One Profits Most Who Serves Best** に改定されたことを受けて、ロータリー・モットーや索引等の項目はすべて **Service Above Self** と **One Profits Most Who Serves Best** に統一されていますが、社会奉仕の項目(104頁)に記載されている「決議23-34」には、**He Profits Most Who Serves Best** と **They** や **One** ではなくて **He** が使われています。

実は私は2004年の規定審議会において決議案04-273「ロータリーにおいて歴史的に重要な声明や文書の原文の用語を保存することを考慮するよう、RI 理事会に要請する件」を提案し、ドクターマン元RI 会長や多くのロータリアンの支持を受けて、これが採択されたという経緯があります。この決議案を順守して決議23-34が歴史的に重要な文書ということでシェルドンの言葉「**He**」がそのまま残ったということならば、これに勝る喜びはないわけです。

私は古いシェルドンの文献を収集、調査した結果、**He Profits Most Who Serves Best** というフレーズは、1902年にシェルドン・ビジネス・スクールの教科書として発行された **Successful Selling** という本に掲載されていることを発見しました。したがってこの言葉はロータリーが作った言葉ではなく、ロータリーがシェルドンからお借りした大切な言葉だという認識を持って保存し使うことが必要であろうと思います。ロータリーが作った思考や言葉ならば時代の変遷とともにそれを大胆に変えていく勇気も必要かもしれません。しかしロータリーが創立される以前に作られた言葉をロータリーが拝借しているとするならば、それなりの配慮を払う必要があります。

この10年来、公民権運動にかこつけていたずらに言葉をもてあそんできたような気がします。もうこの辺でこの不毛な論争は終わりにしたいものです。